

第五回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ・
第二回医療薬学教育委員会ワークショップ
「実務実習の実現に向けての評価方法作成に関するワークショップ」
報告書

テーマ

「実務実習の評価方法の作成」
「服薬指導実習のスケジュールアップ」

平成 17 年 7 月

日本薬学会薬学教育改革大学人会議、日本医療薬学会医療薬学教育委員会ならびに薬学教育協議会では、全大学、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会の参加の下、「実務実習の実現に向けての評価方法作成に関するワークショップ」を5月7日(土)、8日(日)に大阪工大摂南大学創立60周年記念館にて開催した。参加者は、全国55大学の実務実習を担当している教員(各大学から原則1名)、日本薬剤師会(代表9名)、日本病院薬剤師会(代表9名)、総数94名(うち参加者78名)であった。

2日間にわたって、6グループに分かれて「実務実習の評価方法の作成」、「服薬指導実習のスケジュールアップ」について討議した。討議結果をまとめることができたので、ここに報告する。

平成17年7月

市川 厚

武庫川女子大学、日本薬学会薬学教育改革大学人会議実務実習指導システム作り委員会
委員長

緒方宏泰

明治薬科大学、日本医療薬学会医療薬学教育委員会委員長

井村伸正

薬学教育協議会理事長

相本太刀夫

摂南大学、第五回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ・第二回医療薬学教育委員会ワークショップ 実行委員長

目 次

頁

第一部・第二部のまとめ	・・・	1
第三部のまとめ	・・・	11
参考資料1：「実務実習の実現に向けての評価方法作成に関するワークショップ」概要	・・・	12
参考資料2：ワークショップのタイムスケジュール	・・・	13
参考資料3：ワークショップ参加者および班分け	・・・	14
参考資料4：報告書作成担当者	・・・	15
参考資料5：第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」総括	・・・	16
参考資料6：第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」総括	・・・	28
参考資料7：第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」 各グループの報告	・・・	32
参考資料8：第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」 各グループの報告	・・・	50
参考資料9：第三部「服薬指導・顧客対応を中心とした実習の在り方への提言」 各グループの報告	・・・	66

第一部・第二部のまとめ

1. 実務実習の評価方法作成の概要

ワークショップの第一部および第二部では、参加者は6グループに分かれ、A～Cグループは薬局実習、D～Fグループは病院実習の調剤およびコミュニケーションに関するユニットについて別個に評価(案)を作成した(次頁以降参照)。具体的担当ユニットは下表の通りである。

	グループ名	担当ユニット
薬局実習	A～C	(3)薬局調剤を実践する(SBO 数 63 個) (4)薬局カウンターで学ぶ(SBO 数 10 個)
病院実習	D～F	(1) 病院調剤を実践する(SBO 数 49 個) (4) ベッドサイドで学ぶ(SBO 数 21 個)

特筆すべき論点については以下のものが挙げられる。

・ 評価のタイミングについて

薬局実習において、調剤実習やコミュニケーション実習が実習期間中に繰り返し実施されることに注目して、評価のタイミングについて種々検討された。その結果、2.5ヶ月を3～4週間を1クールとして全体を3期に分け、導入的な SBOs については1クール目終了後のみ、継続して学習が必要な SBOs については学生の到達度を反映する形で各クール終了時に評価することが提案された。

・ 実務実習の評価における大学教員の参加について

実務実習における大学教員の役割について、特に病院実習の評価への関わり方が議論され、複数の SBO において測定者として関与する可能性が提案された(努力目標)。今後は薬局実習における大学教員の関与を含め、継続的に討議されるべきである。

・ 実習現場での口頭試験あるいは論述試験のあり方について

調剤実習の現場で、形成的評価を目的として学生に逐次フィードバックを行うことが望ましいということで意見が一致した。フィードバックの方法は、各実習現場の状況に応じて口頭試験あるいは論述試験が採用されること、およびその設問内容はある程度統一されることが望ましいと提案された。さらに実習現場で行われる各評価結果については、学習者自らがすべてを記録として実習日誌あるいは実習ノートに残し、学習者はその後の学習の参考とすること、指導薬剤師および大学教員はその後の指導の参考とすべきであるとの提案があった。

・ 医療人としての心構えについて

実務実習の評価全般について「個々の技能・態度の成果」の確認に留まらず、「医療人としてのマインド形成過程」に注目すべきであるとの指摘が参加者からあり、様々な立場から議論された。本ワークショップ実行委員会としては、「医療人としての心構え」は実務実習だけで培われるものではなく、大学における学習を通して「医療人としての心構え」が芽生えはじめた学生が、実務実習を受けることにより、その心構えが確固たるモチベーションとして醸成されて行くことが実務実習の基本であると認識している。

2. 到達目標ごとの評価計画案

第一部 「実務実習(調剤)の評価方法の作成」

(Ⅲ) 薬局実習

(3) 薬局調剤を実践する

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法	備考
《保険調剤業務の全体の流れ》						
1. 保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 2. 保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる	形成的	知識	指導薬剤師	SBOs 1,2の講義終了後、(6)終了時	口頭	
《処方せんの受付》						
3. 処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる。 4. 処方せん受付時の対応および注意事項(患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など)について説明できる。 5. 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。 6. 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる	形成的	知識	指導薬剤師	1クール終了後	口頭か 論述	
7 [△] . 処方せん受付時の対応ができる。(技能・態度) 8 [△] . 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 9 [△] . 患者が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度) 10 [△] . 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点(服薬状況、副作用の発現など)を把握できる。(技能)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	1クール終了後	シミュレーション・ 実地	チェック リスト(P4) 評価尺度
《処方せんの鑑査と疑義照会》						
11 [△] . 処方せんが正しく記載されていることを確認できる。(技能) 12 [△] . 処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。(知識・技能) 13. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	1クール終了後	シミュレーション・ 実地	チェック リスト
14. 疑義照会の行い方を身につける。(知識・態度) 15. 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。(技能・態度)	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師	1クール終了後	シミュレーション	チェック リスト(P4)

1クール(3~4週間)

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法	備考
《計数・計量調剤》						
16 [△] . 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる	形成的	知識	指導薬剤師	(3回) 初回, 1,2クール後	実地試験	
17 [△] . 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(2回) 1,2クール後	実地試験	
18 [△] . 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(3回) 初回 1,2クール後	実地試験	
19 [△] . 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。 20 [△] . 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 21 [△] . 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 22 [△] . 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。 23 [△] . 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。 24 [△] . 代表的な同種・同効薬を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	(3回) 初回 1,2クール後	客観試験 (論述)	
25 [△] . 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(2回) 1,2クール後	実地試験 チェックリスト	
26 [△] . 一回量(一包化)調剤を必要とするケースについて説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	(1回) 1クール後	口頭試験	
27 [△] . 一回量(一包化)調剤を実施できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(1回) 1クール後	実地試験 チェックリスト	
28 [△] . 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	(1回) 1クール後	実地試験	
29 [△] . 散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(1回) 1クール後	実地試験	
30 [△] . 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的取扱いができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(1回) 1クール後	実地試験	
31 [△] . 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(1回) 1クール後	麻薬:シミュレーション 他:実地試験	
32 [△] . 特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(1回) 1クール後	シミュレーション・ 実地試験	
《計数・計量調剤の鑑査》						
33 [△] . 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	(3回) 1,2,3クール後	実地試験 チェックリスト	

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法	備考
《調剤録と処方せんの保管・管理》						
50. 調剤録の法的規制について説明できる。 51. 調剤録への記入事項について説明できる。 52. 調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。 53. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。 54. 処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。	形成的	知識	指導 薬剤師	(2回) 初回 1クール後	初回 :口頭試験 1クール後 :客観試験	
《調剤報酬》						
55. 調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能)	形成的	技能	指導 薬剤師	(2回) 1, 2クール後	実地試験 チェックリスト	
56. 薬剤師の技術評価の対象について説明できる。	形成的	知識	指導 薬剤師	(1回) 1クール後	口頭試験	
《安全対策》						
57. 代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。(知識・態度)	形成的	知識 態度	指導 薬剤師	(1回) 1クール後	観察記録 レポート	
58 ⁴ . 名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。 59 ⁴ . 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列挙できる。 60 ⁴ . 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。	形成的	知識	指導 薬剤師	(1回) 1クール後	客観試験 (論述)	
61 ⁴ . 調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。(態度) 62 ⁴ . 過誤が生じたときの対応策を討議する。(態度)	形成的	態度	指導 薬剤師	(1回) 1クール後	観察記録 レポート	
63 ⁴ . インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。	形成的	知識	指導 薬剤師	(1回) 1クール後	実地試験	

【評価方法(例示)】

- SBO 7 処方せん受付時の対応ができる。(技能・態度)
SBO 8 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度)
SBO 9 患者が自らすすんで話ができるように工夫をする。(技能・態度)
SBO 10 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点(服薬状況、副作用の発現など)を把握できる。(技能)

チェックリスト

- | | |
|-----------------------|----------|
| ○あいさつ・笑顔 | 悪い・普通・よい |
| ○名前の確認 | 悪い・普通・よい |
| ○処方せん記載事項を確認したか | 悪い・普通・よい |
| ○適切な言葉づかい | 悪い・普通・よい |
| ○必要な情報を伝えたか | 悪い・普通・よい |
| ○(待ち時間、待ち合い場所、お薬手帳など) | 悪い・普通・よい |
| ○身だしなみ | 悪い・普通・よい |
| ○相手の状況・症状に合わせた対応 | 悪い・普通・よい |

SBO 14 疑義照会の行い方を身につける。(知識・態度)

SBO 15 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。(技能・態度)

チェックリスト

- | | |
|-------------------------|--------|
| ○連絡前に資料を揃えたか？ | はい・いいえ |
| ○自分の名前を伝えたか？ | はい・いいえ |
| ○相手を確認できたか？ | はい・いいえ |
| ○言葉づかいは適切か？ | はい・いいえ |
| ○相手の都合に配慮したか？ | はい・いいえ |
| ○疑義照会の内容をまとめ、適切に伝達できたか？ | はい・いいえ |
| ○医師の質問に適切に回答できたか？ | はい・いいえ |
| ○復唱し再確認したか？ | はい・いいえ |
| ○記録に残したか？ | はい・いいえ |
| ○患者に変更点を説明したか？ | はい・いいえ |

SBO 33 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)

チェックリスト

1. 調剤された医薬品について以下の項目を確認したか

- | | |
|---------|--------------|
| ○薬品名 | (はい ・ いいえ) |
| ○含量 | (はい ・ いいえ) |
| ○剤形 | (はい ・ いいえ) |
| ○数量(全量) | (はい ・ いいえ) |
| ○不良薬品 | (はい ・ いいえ) |
| ○保存方法 | (はい ・ いいえ) |
| ○包装形態 | (はい ・ いいえ) |

2. 鑑査記録を残したか (はい ・ いいえ)

3. 薬袋について以下の項目を確認したか

- | | |
|--------|--------------|
| ○患者名 | (はい ・ いいえ) |
| ○用法 | (はい ・ いいえ) |
| ○用量 | (はい ・ いいえ) |
| ○押印 | (はい ・ いいえ) |
| ○入れ間違い | (はい ・ いいえ) |

4. 薬剤情報提供用紙について以下の項目を確認したか

- | | |
|---------|--------------|
| ○薬品名 | (はい ・ いいえ) |
| ○含量 | (はい ・ いいえ) |
| ○剤形 | (はい ・ いいえ) |
| ○数量(全量) | (はい ・ いいえ) |
| ○保存方法 | (はい ・ いいえ) |
| ○包装形態 | (はい ・ いいえ) |

5. 以下の事項について薬歴との照合を行なったか

- | | |
|-------|--------------|
| ○副作用 | (はい ・ いいえ) |
| ○相互作用 | (はい ・ いいえ) |
| ○他科受診 | (はい ・ いいえ) |

(II) 病院実習

(1) 病院調剤を実践する

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《病院調剤業務の全体の流れ》					
1. 患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。 2. 病院内での患者情報の流れを図式化できる。 3. 病院に所属する医療スタッフの職種名列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。 4. 薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。 5. 処方せん（外来、入院患者を含む）の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。 6. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 教員(努力目標)	口頭は LSH101、LSH102 の間に随時行う。 その際に図式等はメモにより行う。 レポートの場合は、LSH101、LSH102 の終了時に提出。	口頭 (必要に応じてレポートも併用)
《計数・計量調剤》					
7. 処方せん（麻薬、注射剤を含む）の形式、種類および記載事項について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH103 の間に随時行う。	口頭(チェックリストを用いる)
8 ⁴ . 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。 9 ⁴ . 代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。 10 ⁴ . 薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH104 の間に随時行う。	口頭(チェックリストを用いる)
11 ⁴ . 適切な疑義照会の実務を体験する。	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師	LSH105 の実習中	観察記録
12 ⁴ . 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH106 の実習中	口頭(チェックリストを用いる)
13 ⁴ . 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能) 14 ⁴ . 錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	LSH107 の実習中 (途中と終了時に複数回実施)	観察記録
15 ⁴ . 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH107 の実習中 (途中と終了時に複数回実施)	口頭(チェックリストを用いる)
16 ⁴ . 代表的な医薬品の色・形、識別コードから識別できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	LSH107 の実習中 (途中と終了時に複数回実施)	実地試験
17 ⁴ . 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 18 ⁴ . 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 19 ⁴ . 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH107 の実習中 (途中と終了時に複数回実施)	口頭(チェックリストを用いる)
20 ⁴ . 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	LSH108 の終了時	観察記録
21 ⁴ . 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH109 の終了時	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。

SB0s	目的	対象	測定者	時期	方法
22 [△] . 散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能) 23 [△] . 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	LSH110の終了時	観察記録
24 [△] . 細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。 25 [△] . 特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH111の終了時	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。
26 [△] . 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。 (知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH112の終了時	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。
27 [△] . 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH113の体験 終了時	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。
《服薬指導》					
28 [△] . 患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師	LSH114の実習中 (複数回実施)	レポート・観察記録
29 [△] . 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH115とLSH116 の実習中 (複数回実施)	口頭
30 [△] . 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH115とLSH116 の実習中 (複数回実施)	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。
31 [△] . お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH117の実習中 (複数回実施)	口頭
32 [△] . 期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する。(知識・態度)	形成的	知識 態度	指導薬剤師 教員(努力目標)	LSH117の実習中 (複数回実施)	知識は口頭、 SGDは観察記録を用いる。
《注射剤調剤》					
33. 注射剤調剤の流れを概説できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH118の終了時	口頭
34. 注射処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。 (技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH119の終了時	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。
35. 代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。(技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH119の終了時	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。
36. 処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそえができる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH121の終了時	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。
37. 注射剤(高カロリー栄養輸液など)の混合操作を実施できる。(技能) 38. 注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。	形成的	技能 知識	指導薬剤師	LSH122の終了時	知識は口頭、 技能は観察記録を用いる。
39. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。(技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH123の終了時	知識は口頭で行い、 技能は観察記録を用いる。
40. 細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH124の終了時	口頭

41. 特別な注意を要する注射剤（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師	LSH124 の終了時	観察記録
42. 調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。（技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師	LSH125 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
《安全対策》					
43 [△] . リスクマネージメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。 44 [△] . 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。 45 [△] . 商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	LSH126 の終了時	口頭（チェックリストを用いる）
46 [△] . 医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。（態度） 47 [△] . インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネージメントについて討議する。（態度） 48 [△] . 職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。（態度）	形成的	態度	指導薬剤師 教員（努力目標）	LSH127 の終了時	レポート 観察記録
49 [△] . 実習中に生じた諸問題（調剤ミス、過誤、事故、クレームなど）を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。（技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 教員（努力目標）	LSH127 の終了時	実地試験（フォーマットに記載する）

第二部 「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

（Ⅲ）薬局実習

（3）薬局調剤を実践する

SBOs	目的	対象	測定者	時期（ユニットの）	方法
《服薬指導の基礎》					
34 [△] . 適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。（知識・技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	初期（1～2w）	口頭、客観
35. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	初期（1～2w）	口頭、客観
36. 薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。（知識・技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	初期（1～2w）	シミュレーション
37. 薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。 38 [△] . 妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	初期（1～2w）	口頭、客観
39 [△] . 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	初期（1～2w）	シミュレーション
40 [△] . 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	初期（1～2w）	口頭、客観
《服薬指導入門実習》					
41 [△] . 指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。（技能） 42. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。（技能） 43 [△] . 患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。（技能） 44. お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師	中期	シミュレーション・実地（練習）薬剤師が傍にいる。

《服薬指導実践実習》					
45 [△] . 患者に共感的態度で接する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	後期	レポート・観察記録
46 [△] . 患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	後期	レポート・観察記録
47 [△] . 患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度) 48 [△] . 患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度) 49 [△] . 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	後期	レポート・観察記録

(4) 薬局カウンターで学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《患者・顧客との接遇》					
1. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度) 2. 患者、顧客に対して適切な態度で接する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	初期	レポート
3. 疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度) 4. 医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	中期	観察記録
《一般用医薬品・医療用具・健康食品》					
5. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	中期	シミュレーション
6. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	中期	シミュレーション
《カウンター実習》					
7. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度) 8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度) 9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度) 10. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生	中期	実地 (チェックリスト)

(II) 病院実習

(4) ベッドサイドで学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《医療チームへの参加》					
4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録・口頭試問 (チェックリスト使用)
5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 (状況に応じて医療スタッフ)	実習中随時	観察記録・口頭試問 (チェックリスト使用)

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《薬剤管理指導業務》					
6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。(技能) 7. 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した情報を正確に記載できる(薬歴、服薬指導歴など)。(技能) 8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。(技能) 9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録 口頭試問 レポート
10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。 11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	実習中随時	口頭試問・レポート (具体的な症例に対して)
12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。(技能・態度) 13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。(技能・態度) 14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。(技能・態度)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試問・観察記録
15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。 (知識・技能) 16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。(知識・技能) 17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から、気づくことができる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試問・観察記録
18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試問・観察記録
19. 患者に共感的態度で接する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試問・観察記録
20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録またはシミュレーション・レポート
21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録またはシミュレーション・レポート
22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。(知識・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録またはシミュレーション・レポート
《処方支援への関与》					
23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	実習終了時	レポート・観察記録
24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師 (大学の事情により教員)	実習終了時	レポート・観察記録

第三部のまとめ

1. 服薬指導実習のスケジュールアップの概要

本アドバンスワークショップでは、第二部までの作業で薬局実習、病院実習の評価方法が作成され、実務実習モデル・コアカリキュラムの3要素となる目標、方略、評価方法を揃えることができた。しかし、目標(SBOs)に到達するために、11週の実習期間中にどのようなステップで学習を進め、どの段階で評価を行うのが最も効果的であるか、すなわち方略、評価の実際的な運用は例示されていない。また、従来の学生実習では実施されていなかった参加型実習を実現するために患者や顧客にどのように説明し了解を得たらよいか、すなわちインフォームドコンセントの取得方法に関しても十分議論されていない。

そこで、服薬指導や顧客対応などの参加型学習が全国の施設で標準化され、適切に実施されるためには、コアカリキュラムの方略をもとに、実習施設の環境を想定した、①SBOsに到達するための段階的な学習、②患者、顧客の理解と了解(インフォームドコンセント)、③適切な時期に適切な評価、を明示し、学習のステップ(流れ)を時系列で明示するスケジュールアップの作業が必要と思われる。こうしたスケジュールアップの作業は各実習施設でのスムーズな実習の実施に欠かせざるものと思われる。

以上のことから第三部では、A～Cグループは薬局実習のユニット(3)薬局調剤を実践する、のうち《服薬指導入門実習》《服薬指導実践実習》について、D～Fグループは病院実習のユニット(4)ベッドサイドで学ぶ、のうち《薬剤管理指導業務》に関する方略について実際的なスケジュールの作成を行った。

特筆すべき論点については以下のものが挙げられる。

各グループから、「インフォームドコンセントを取得した後に実習生が実際に実施する」ことの重要性が改めて述べられ、そのためには、

見学→シミュレーション→実践

の順に段階を追って実習を進めるべきであるというアウトラインが提案された。さらに、実習期間として、学習の準備段階にあたる「見学」および「シミュレーション」には、少なくともそれぞれ1週間をかけることが提案された。ただし、これらの期間はあくまでも標準(目安)であり、実際の実習期間については指導薬剤師が個々の学生の習熟度を注意深く評価して判断すべきであるとされた。

インフォームドコンセントの取得に関しては以下の意見が提示された。

- ①「薬学部実習生が実習中である」ことを掲示する必要があることが強調された。
- ②インフォームドコンセントは、服薬指導の実践段階の実習のみならず、見学段階の実習においても必要であることが指摘された。
- ③インフォームドコンセントは指導薬剤師が取得すべきであるとの意見が示された。
- ④一方で、学生自らが指導薬剤師に同行してもらってインフォームドコンセントを取得すべきであるとの意見も示された。

第五回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ・
 第二回医療薬学教育委員会ワークショップ

「実務実習の実現に向けての評価方法作成に関するワークショップ」概要

参加者 第一回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ「長期実務実習を潤滑に進めるための教育者ワークショップ」、第三回「共用試験 OSCE の実施に向けた教育者ワークショップ」、第四回「実務実習事前学習の実現に向けての評価方法作成に関する教育者ワークショップ」の参加者(最も望ましい)、あるいは教育者ワークショップ経験者(タスクフォース経験者が望ましい)であり、実務実習を担当している教員(教授、助教授、講師)、各大学から原則1名。日本薬剤師会推薦9名、日本病院薬剤師会推薦9名。

主催 日本薬学会、日本医療薬学会、薬学教育協議会

日程 平成17年5月7日(土)、8日(日)
 午前9時30分から開始予定、1日目のワークショップ終了後、懇親会

場所 大阪工大摂南大学創立60周年記念館
 (大阪市旭区大宮5-16-1 : TEL: 06-6954-4572)

ディレクター : 市川 厚 (日本薬学会 薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム
 作り委員会委員長)

緒方宏泰 (日本医療薬学会 医療薬学教育委員会委員長)

井村伸正 (薬学教育協議会 理事長)

オブザーバー : 乾 賢一 (日本医療薬学会 会頭)、森 昌平 (日本薬剤師会)

関野秀人 (厚生労働省)

タスクフォース : 相本太刀夫 (摂南大学)

入江徹美 (熊本大学)、奥 直人 (静岡県立大学)、工藤一郎 (昭和大学)

郡 修徳 (北海道薬科大学)、坂本尚夫 (東北大学)、中村明弘 (福山大学)

山元俊憲 (昭和大学)、上村直樹 (株式会社ファーミック 富士見台調剤薬局)

菅家甫子 (兼参加者: 共立薬科大学)、木津純子 (共立薬科大学)

木内祐二 (昭和大学)

事務局 : 土肥三央子 (日本薬学会)

第五回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ・
 第二回医療薬学教育委員会ワークショップ
 「実務実習の実現に向けての評価方法作成に関するワークショップ」
 スケジュール

主催：日本薬学会、日本医療薬学会、薬学教育協議会

日時：平成 17 年 5 月 7 日（土）、8 日（日）

場所：大阪工大摂南大学創立 60 周年記念館

-プログラム- 2P：全体会議 1P：3 グループ合同会議 S：小グループディスカッション

第 1 日：平成 17 年 5 月 7 日（土）

9:30	2P	開会の挨拶	1 分
		ディレクター挨拶	3 分
9:34	2P	自己紹介（参加者）	16 分
9:50	2P	経過および趣旨説明	5 分

第一部：「実務実習（調剤）の評価方法の作成」

10:00	1P	第 4 回アドバンス WS のまとめの紹介と分担説明	15 分
10:15	S	評価方法の作成	105 分
12:00	1P	プロダクトの中間発表	15 分
12:15		昼食	60 分
13:15	S	評価方法の作成（続き）	105 分
15:00	1P	プロダクトの発表	15 分
15:15		休憩	20 分
15:35	1P	プロダクトの修正	90 分
17:05	2P	プロダクトの発表	20 分
17:25	2P	総合討論	35 分
18:00		懇親会	

第 2 日：平成 17 年 5 月 8 日（日）

8:50	2P	1 日目の総括	10 分
------	----	---------	------

第二部：「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

9:00	2P	OSCE ミニトリアル紹介と分担説明	15 分
9:15	S	評価方法の作成	105 分
11:00	1P	プロダクトの発表	15 分
11:15	1P	プロダクトの修正	45 分
12:00	2P	プロダクトの発表	10 分
12:10	2P	総合討論	20 分
12:30		昼食	60 分

第三部：「服薬指導・顧客対応を中心とした実習の在り方への提言」

13:30	2P	趣旨説明	10 分
13:40	S	服薬指導実習のスケジュールアップ	80 分
15:00	2P	発表	30 分
15:30	2P	総合討論	30 分
16:00	2P	今後の予定	5 分
16:05	2P	閉会の挨拶	1 分

ワークショップ参加者および班分け

A	早川 達 ³⁾	北海道薬科大学	D	福永 浩司	東北大学
	青山 隆夫	東京理科大学		榊渕 泰宏	千葉科学大学
	菅家 甫子	共立薬科大学		吉田 久博	明治薬科大学
	河田登美枝	武蔵野大学		中村 均	日本大学
	田辺 光男	名古屋市立大学		渡邊真知子 ³⁾	帝京大学
	橋詰 勉	京都薬科大学		脇屋 義文	北陸大学
	前田 定秋 ¹⁾	摂南大学		足立 哲夫	岐阜薬科大学
	手嶋 大輔	就実大学		北小路 学	近畿大学
	島添 隆雄	九州大学		川崎 博巳	岡山大学
	西田 孝洋	長崎大学		原 周司 ¹⁾	福岡大学
	永田 泰造 ²⁾	日本薬剤師会		出石 啓治	日本薬剤師会
	安部 好弘	日本薬剤師会		尾鳥 勝也 ²⁾	日本病院薬剤師会
	上坂 康子	日本病院薬剤師会		木村 康浩	日本病院薬剤師会
B	関川 彬	北海道医療大学	E	中村 仁	東北薬科大学
	富岡 佳久	城西国際大学		上野 和行	新潟薬科大学
	高柳 理早 ¹⁾	東京薬科大学		田口 恭治	昭和薬科大学
	黒山 政一	北里大学		佐藤 光利	東邦大学
	赤尾 光昭	富山医科薬科大学		賀川 義之	静岡県立大学
	平田 收正	大阪大学		宮本 悦子	北陸大学
	吉富 博則 ³⁾	福山大学		内田 享弘	武庫川女子大学
	飯原なおみ	徳島文理大学香川		三宅 勝志	広島国際大学
	荒牧 弘範	第一薬科大学		岡野 善郎 ¹⁾	徳島文理大学
	有馬 英俊	熊本大学		樋口 駿 ³⁾	九州大学
	高橋 寛	日本薬剤師会		宮崎長一郎	日本薬剤師会
	大原 整 ²⁾	日本薬剤師会		高橋浩二郎 ²⁾	日本病院薬剤師会
	山本 育由	日本病院薬剤師会		桂 敏也	日本病院薬剤師会
C	竹下 光弘	東北薬科大学	F	齋藤 久雄	青森大学
	戸部 徹 ¹⁾	昭和大学		伊藤 晃成	東京大学
	佐藤 信範	千葉大学		杉山 清	星薬科大学
	北澤 式文	帝京平成大学		大井 一弥 ³⁾	城西大学
	野田 幸裕	名城大学		松下 良	金沢大学
	西川 元也	京都大学		羽田 理恵	大阪薬科大学
	平井みどり ³⁾	神戸薬科大学		徳山 尚吾	神戸学院大学
	土屋浩一郎	徳島大学薬学部		小澤孝一郎 ¹⁾	広島大学
	本屋 敏郎	九州保健福祉大学		大山 良治	日本薬科大学
	平松 正彦	日本薬剤師会		永田 修一	日本薬剤師会
	曾根 清和 ²⁾	日本薬剤師会		白井 裕二 ²⁾	日本病院薬剤師会
	土屋 節夫	日本病院薬剤師会		西井 諭司	日本病院薬剤師会

1) 第1部報告書作成担当 2) 第2部報告書作成担当 3) 第3部報告書作成担当

ディレクター：市川 厚（日本薬学会 薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム
作り委員会委員長）、緒方宏泰（日本医療薬学会 医療薬学教育委員会委員長）
井村伸正（薬学教育協議会 理事長）

オブザーバー：乾 賢一（日本医療薬学会 会頭）、森 昌平（日本薬剤師会）
関野秀人（厚生労働省）

タスクフォース：相本太刀夫（摂南大学）

入江徹美（熊本大学）、奥 直人（静岡県立大学）、工藤一郎（昭和大学）
郡 修徳（北海道薬科大学）、坂本尚夫（東北大学）、中村明弘（福山大学）
山元俊憲（昭和大学）、上村直樹（株式会社ファーミック 富士見台調剤薬局）
菅家甫子（兼参加者：共立薬科大学）、木津純子（共立薬科大学）
木内祐二（昭和大学）

報告書作成担当者

1. 各グループ報告書作成担当者

グループ	第1部(調剤)	第2部(コミュニケーション)	第3部(対人スケジュールアップ)
A	前田 定秋(摂南大学)	永田 泰造(日本薬剤師会)	早川 達(北海道薬科大学)
B	吉富 博則(福山大学)	大原 整(日本薬剤師会)	高柳 理早(東京薬科大学)
C	戸部 敏(昭和大学)	曾根 清和(日本薬剤師会)	平井みどり(神戸薬科大学)
D	ナシ	尾鳥 勝也(日本病院薬剤師会)	渡邊真知子(帝京大学)
E	岡野 善郎(徳島文理大学)	高橋浩二郎(日本病院薬剤師会)	樋口 駿(九州大学)
F	小澤孝一郎(広島大学)	白井 裕二(日本病院薬剤師会)	大山 良治(日本薬科大学)

2. すり合わせ(総括)報告書作成担当者

グループ	第1部(調剤)	第2部(コミュニケーション)
ABC①(前半)	高橋 寛(日本薬剤師会)	青山 隆夫(東京理科大学)
ABC②(後半)	手嶋 大輔(就実大学)	
DEF	小澤孝一郎(広島大学)	宮崎長一郎(日本薬剤師会)

社団法人 日本薬学会

第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」

“薬局実習の（3）薬局調剤を実践する”の評価方法の作成

総括編前半：ABCグループ①

AからCグループにおいては、“（3）の薬局調剤を実践する”のうち、1～15の評価方法を検討し、それを総合討論にてまとめた。

SBOsを1から順に検討したが、似た内容を一括評価する意味で、表に示したように、1～2、3～6、7～10、11～13、14～15をまとめて評価することにした。薬局での業務の流れから、3～4週間を一つの単位として、1クールとした。

<<SBO1, 2 保険調剤業務の全体の流れ>>

議論は、SBO1～2が全体の流れの部分に該当し、この部分にレセプトの内容が含まれるが、レセプトは事前実習を通して学習されていない内容である。そのため、SBO1にてレセプトを説明するのか、それともSBO1では導入部分だけ説明して詳細はSBO55～56で説明すべきかの議論があった。そして評価はそれに伴うため、評価のタイミングを“（6）薬局業務を総合的に学ぶ”で行うか、“（3）薬局調剤を実践する”終了時に行うか、1～2の部分の説明した後に行うか解釈と議論が分かれた。

SBO1, 2の理解としては、方略案から90x2でもあり、薬局業務の導入部分と位置付け、評価の時期は1～2説明終了後、その説明内容に対し理解度を軽く確認する程度とし、そして全体の総括の“（6）薬局業務を総合的に学ぶ”の中で再度理解度を評価する案となる。

<<SBO3～6 処方せんの受付>>

薬局での調剤行為は、実習期間を通じて行う場合がほとんどと考えられるため、SBO終了後に評価を行うのではなく、1クール、2クール終了後といった業務の区切りで評価を行い、学生に継続的なフィードバックを行う形成的な評価がよいという結論となる。

そして形成的評価で学生にフィードバックをかけた内容を何かの形で残すべきか否かも議論となった。この理由としては、現場では多忙のため口頭がよいのでは？という意見と多忙のため紙に記載しておき後で指導薬剤師が読む方がよいのではという意味であった。議論を進める中で、フィードバックの方法は口頭でも記述でも現場に任せることにして、設問内容だけはある程度統一してはということで、SBOに記載してある内容程度にすることに合意された。つまり、

（例）SBO3

処方せんの形式について説明せよ

処方せんの記載事項について説明せよ

という内容である。

総合討論の中で、学生はフィードバックをかけられた内容は日誌もしくは実習ノートに記載するのではという意見もあり、現実的には口頭にてフィードバックを行い、学生と確認をし、その内容を学生自身に日誌もしくは実習ノートに記録させるのが妥当ではというところに落ち着いた。

<<SBO7～10 処方せんの受付>>

チェックリストを用い、評定尺度を用いて評価を行うことになる。(評定尺度の段階に関しては議論せず：とりあえず3段階で作成)

<<SBO11～13 処方せんの鑑査>>

表の通り

<<SBO14～15 疑義照会>>

実際に処方医への疑義照会は難しいため、シミュレーションのみとした。評価方法は、チェックリストを用いて行うことになる。

<<SBO3～15に関して>>

全体の討論では、評価時期は1クール終了時にまとまったが、薬局実習では調剤部分は基本業務であり実習期間を通じて日々行われるため、各クール終了時に行う方がよいという意見や実習期間を通じて日々口頭試問を行うべきであるという意見もあった。薬局実習期間中は、特別に時間をとって学生を評価することは難しく、実習期間を通じて日々学生の評価をやり続け、学生の成長に応じて次のステップに進ませた方がよいという薬局側の意見もあった。

SBO 1～15 の評価方法

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法	備考
1, 2	形成的評価	知識	指導薬剤師	SBOs1, 2の講義終了後、(6)終了時	口頭	
3～6	形成的評価	知識	指導薬剤師	1クール終了後	口頭か論述	
7～10	形成的評価	技能・態度	指導薬剤師	1クール終了後	シミュレーション・実施	チェックリスト・評定尺度
11～13	形成的評価	知識・技能	指導薬剤師	1クール終了後	シミュレーション・実施	チェックリスト
14, 15	形成的評価	知識・技能・態度	指導薬剤師	1クール終了後	シミュレーション	チェックリスト

1クール(3～4週間)

7～10 チェックリスト (処方せんの受付)

- | | |
|------------------------|----------|
| ● あいさつ・笑顔 | 悪い・普通・よい |
| ● 名前の確認 | 悪い・普通・よい |
| ● 処方せん記載事項を確認したか | 悪い・普通・よい |
| ● 適切な言葉づかい | 悪い・普通・よい |
| ● 必要な情報を伝えたか | 悪い・普通・よい |
| ● (待ち時間、待ち合い場所、お薬手帳など) | 悪い・普通・よい |
| ● 身だしなみ | 悪い・普通・よい |
| ● 相手の状況・症状に合わせた対応 | 悪い・普通・よい |

14, 15 チェックリスト (疑義照会)

- | | |
|--------------------------|--------|
| ● 連絡前に資料を揃えたか? | はい・いいえ |
| ● 自分の名前を伝えたか? | はい・いいえ |
| ● 相手を確認できたか? | はい・いいえ |
| ● 言葉づかいは適切か? | はい・いいえ |
| ● 相手の都合に配慮したか? | はい・いいえ |
| ● 疑義照会の内容をまとめ、適切に伝達できたか? | はい・いいえ |
| ● 医師の質問に適切に回答できたか? | はい・いいえ |
| ● 復唱し再確認したか? | はい・いいえ |
| ● 記録に残したか? | はい・いいえ |
| ● 患者に変更点を説明したか? | はい・いいえ |

第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」

“薬局実習の（3）薬局調剤を実践する”の評価方法の作成

総括編後半：ABCグループ②

LS	SBO s	目的	対象	測定者	時期	方法
P309	16	形成的評価	知識	指導薬剤師	(3回) 初回, 1,2ケル後	実地試験
P310	17	形成的評価	技能	指導薬剤師	(2回) 1, 2ケル後	実地試験
P310	18	形成的評価	技能	指導薬剤師	(3回) 初回, 1,2ケル後	実地試験
P310	19~24	形成的評価	知識	指導薬剤師	(3回) 初回, 1,2ケル後	客観試験（記述）
P310	25	形成的評価	技能	指導薬剤師	(2回) 1, 2ケル後	実地試験 チェックリスト
P311	26	形成的評価	知識	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	口頭試験
P311	27	形成的評価	技能	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	実地試験、チェックリスト
P312	28	形成的評価	知識・技能	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	実地試験
P313	29	形成的評価	技能	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	実地試験
P313	30	形成的評価	技能	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	実地試験
P314	31	形成的評価	技能	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	麻薬：シミュレーション 他：実地試験
P314	32	形成的評価	技能	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	シミュレーション・実地試験
P315	33	形成的評価	技能	指導薬剤師	(3回) 1, 2, 3ケル後	実地試験、チェックリスト
P323~ P325	50~54	形成的評価	知識	指導薬剤師	(2回) 初回, 1ケル後	初回：口頭試験 1ケル後：客観試験
P326	55	形成的評価	技能	指導薬剤師	(2回) 1, 2ケル後	実地試験、チェックリスト
P327	56	形成的評価	知識	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	口頭試験
P328	57	形成的評価	知識・態度	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	観察・レポート
P329~ P331	58~60	形成的評価	知識	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	客観試験（記述）
P332	61, 62	形成的評価	態度	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	観察・レポート
P333	63	形成的評価	知識	指導薬剤師	(1回) 1ケル後	実地試験

薬局実習における調剤評価法の作成に参加した。本報告はA、B、C班によって作成されたプロダクトを一つにまとめたものである。ただし、本報告には全項目の内、項目16から項目33、および項目50から項目63までしか含まれていない。

本プロダクトをまとめるに当たっては、A班のプロダクトを中心に検討を行ったが、問題は

時期および方法であった。時期については、前期、中期、後期、総合（各 3 週間）の 4 期に分ける案があったが、薬局調剤においては一連の業務がレセプトの締めまで、つまり、1 ヶ月で区切られることから、1クール 4 週間で、2クール、および、まとめの期間の 3 期（計 2.5 ヶ月）に分ける案で決着した。また、初回とは、事前学習レベルの確認を行うための段階であり、実務実習開始時を意味する。

方法については、知識を問うところで論述試験の案が出されたが、実習中に随時行われる指導薬剤師からの知識を確認する質問に対しては、時間を置かず回答させる口頭試験もしくは客観試験（記述試験）が適切であろうということで決着した。

SBO-31 の麻薬だけは、実地は困難と考えられ、シミュレーションで評価を行なうこととした。

SBO-16 および 63 に関しては、目的が知識であるが、薬袋・薬札の作成やインシデント・アクシデント例に対する報告書を実際に作成させることによって、知識を問う意味で評価法を実地試験とした。

以下に SBO-33 のチェックリスト案をまとめた。

(SBO 33.) 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)

チェックリスト

1. 調剤された医薬品について以下の項目を確認したか

薬品名	(はい ・ いいえ)
含量	(はい ・ いいえ)
剤形	(はい ・ いいえ)
数量 (全量)	(はい ・ いいえ)
不良薬品	(はい ・ いいえ)
保存方法	(はい ・ いいえ)
包装形態	(はい ・ いいえ)

2. 鑑査記録を残したか

(はい ・ いいえ)

3. 薬袋について以下の項目を確認したか

患者名	(はい ・ いいえ)
用法	(はい ・ いいえ)
用量	(はい ・ いいえ)
押印	(はい ・ いいえ)
入れ間違い	(はい ・ いいえ)

4. 薬剤情報提供用紙について以下の項目を確認したか

- | | |
|---------|--------------|
| 薬品名 | (はい ・ いいえ) |
| 含量 | (はい ・ いいえ) |
| 剤形 | (はい ・ いいえ) |
| 数量 (全量) | (はい ・ いいえ) |
| 保存方法 | (はい ・ いいえ) |
| 包装形態 | (はい ・ いいえ) |

5. 以下の事項について薬歴との照合を行なったか

- | | |
|------|--------------|
| 副作用 | (はい ・ いいえ) |
| 相互作用 | (はい ・ いいえ) |
| 他科受診 | (はい ・ いいえ) |

社団法人 日本薬学会

第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」

“実務実習（病院調剤）”の評価方法の作成

総括編：DEFグループ

各グループで作成した評価計画表を基にすり合わせ作業を行い、下記の合同評価計画案を作成した。尚、検討は実務実習モデル・コアカリキュラムのLSに準拠して行い、実施時期についてはそのLS番号で記載した。さらに、SB0s（技能・態度）の一部について評価表の作成を試みた。

【話し合いの概要】

1) 案作成の前提条件

- ・ 実習生は5名とし、学生1名当たり150床で約750床の規模の病院での実習を想定する。
- ・ 複数の大学からの混成で実習することを前提とし、どの大学でも評価に使用することが可能なものを作る。
- ・ 病院実習を先に実施することとし、△も実習項目とする。

2) 主な論点

- ・ 教員が測定者として加わることが現実的に可能か？
→将来を見込んで努力目標とするのか、現実を重視した案を作るのかを様々な観点から議論した結果、グループ案としては、努力目標とすることとした。ただし、ここでいう「教員」は、病院で医療に従事していない教員を指す。概して、「教員」の定義が曖昧であることが議論をかみ合わなくさせている一因と考えられる。従って、臨床現場で実務を行っている教員は指導薬剤師として測定者に含まれている。
- ・ 測定者への過度の負荷を避け、同時に、測定結果を紙面で残す工夫が必要。
→原則として、知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いることとし、さらに口頭試問の場合には、その内容と回答を学生が実習日誌に記録として残すこととした。また、必要に応じてチェックリストを作り、それを実習日誌に貼り付けることも有用である。
- ・ 教育効果を高めるためにはどうするべきか？
→フィードバックを主な目的とし、必要に応じて繰り返し行い、学生への迅速なフィードバックにより気付きと行動の修正を促し、単なる技術の向上ばかりではなく、医療人としての心も成長させることが重要である。そのため、今回の作業ユニットでの評価は基本的に形成的評価とし、総括評価については別途議論が必要である。

3) その他

- ・ 評価計画の作成に多くの時間を割いたため、評価表の作成の議論を行うことが出来なかった。
- ・ 総合討論の際に今回の作業に対して複数の参加者から概ね次のような意見が出された。主に技術に対する詳細な評価表を作成し、学生の技術と態度の形成と向上を図ることは重要なことではあるが、余りにも細部に渡る評価計画を立て細かくチェックし過ぎると、学生も指導者も技術的なことばかりを気にする余り、じっくりと考え、自らの力で問題を発見し解決していくという、大きな目標を見失う、或いは達成できないのではないかという危惧はないか。また、医療人としての心構えの育成にも支障を来す恐れがあるのではないか。

→今回は時間的な制約から十分な議論ができなかったが、非常に大切な課題であり継続的な議論が必要であると考えられる。

→病院実習、薬局実習共に各々のモデル・コアカリキュラムの最後に“(6) 医療人としての薬剤師”および“(6) 薬局業務を総合的に学ぶ”のユニットが設けられており、今回は検討範囲外であったが、必要な到達目標の追加も含め、このユニットの評価計画を作成する際に上記意見を十分に考慮することが重要であると考えられる(注：報告書作成者の個人的な考え)。

→先生方の意図するところは理解できますが、「病院調剤を実践する」に対する評価ですので「心構え」の部分はあくまで他の部分も含めて総合的に補えばいいと考えています。あくまでこの部分では知識、技能、態度(他のスタッフ等との関係等)を習得することであり、ここで「医療人」をとりたてて問題にするべきではないと考えています。「医療人としての心構え」は実習全体の根底にあるものであり、言い過ぎかもしれませんが「医療人としての心構え」をモチベーションとして持った学生が実習に来て、現場でそれを現実問題として学生が再認識すればいいのではないのでしょうか。

課題【到達目標】

(1) 病院調剤を実践する

一般目標：

病院において調剤を通して患者に最善の医療を提供するために、調剤、医薬品の適正な使用ならびにリスクマネジメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

SBOs：

《病院調剤業務の全体の流れ》

1. 患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。
2. 病院内での患者情報の流れを図式化できる。

3. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
4. 薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。
5. 処方せん（外来、入院患者を含む）の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。
6. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。

《計数・計量調剤》

7. 処方せん（麻薬、注射剤を含む）の形式、種類および記載事項について説明できる。
- 8△. 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。
- 9△. 代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。
- 10△. 薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。
- 11△. 適切な疑義照会の実務を体験する。
- 12△. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。
- 13△. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。（技能）
- 14△. 錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。（技能）
- 15△. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
- 16△. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能）
- 17△. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
- 18△. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
- 19△. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
- 20△. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。（技能）
- 21△. 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）
- 22△. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能）
- 23△. 調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的な取扱いができる。（技能）
- 24△. 細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。
- 25△. 特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）
- 26△. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）
- 27△. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。（技能）

《服薬指導》

- 28△. 患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。（知識・技能）
- 29△. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。
- 30△. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。
- 31△. お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。
- 32△. 期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する。（知識・態度）

《注射剤調剤》

33. 注射剤調剤の流れを概説できる。
34. 注射処方せんに記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。（技能）
35. 代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。（技能）
36. 処方せんに記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる。（知識・技能）
37. 注射剤（高カロリー栄養輸液など）の混合操作を実施できる。（技能）
38. 注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
39. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。（技能）
40. 細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。
41. 特別な注意を要する注射剤（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）
42. 調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。（技能）

《安全対策》

- 43△. リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。
- 44△. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。
- 45△. 商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。
- 46△. 医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。（態度）
- 47△. インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネジメントについて討議する。（態度）
- 48△. 職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。（態度）
- 49△. 実習中に生じた諸問題（調剤ミス、過誤、事故、クレームなど）を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。（技能）

【評価計画】

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1	形成的	知識	指導薬剤師・教員(努力目標)	口頭は LSH101、LSH102 の間に随時行う。その際に図式等はメモにより行う。レポートの場合は、LSH101、LSH102 の終了時に提出。	口頭(必要に応じレポートも併用)
2	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃	〃	〃	〃	〃
4	〃	〃	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃	〃	〃
7	形成的	知識	指導薬剤師	LSH103 の間に随時行う。	口頭(チェックリストを用いる)

8△	形成的	知識	指導薬剤師	LSH104 の間に随時行う。	〃
9△	〃	〃	〃	〃	〃
10△	〃	〃	〃	〃	〃
11△	形成的	知識・技能・態度	指導薬剤師	LSH105 の実習中	観察記録
12△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH106 の実習中	口頭(チェックリストを用いる)
13△	形成的	技能	指導薬剤師	LSH107 の実習中(途中と終了時に複数回実施)	観察記録
14△	〃	〃	〃	〃	〃
15△	〃	知識	〃	〃	口頭(チェックリストを用いる)
16△	〃	技能	〃	〃	実地試験
17△	〃	知識	〃	〃	口頭(チェックリストを用いる)
18△	〃	〃	〃	〃	〃
19△	〃	〃	〃	〃	〃
20△	形成的	技能	指導薬剤師	LSH108 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
21△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH109 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
22△	形成的	技能	指導薬剤師	LSH110 の終了時	観察記録
23△	〃	〃	〃	〃	〃
24△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH111 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
25△	〃	〃	〃	〃	〃
26△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH112 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
27△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH113 の体験終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
28△	形成的	知識・技能・態度	指導薬剤師	LSH114 の実習中(複数回実施)	レポート・観察記録
29△	形成的	知識	指導薬剤師	LSH115 と LSH116 の実習中(複数回実施)	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
30△	〃	知識・技能	〃	〃	〃
31△	形成的	知識	指導薬剤師	LSH117 の実習中(複数回実施)	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
32△	〃	知識・態度	指導薬剤師・教員(努力目標)	〃	知識は口頭で行い、SGD は観察記録を用いる。

33	形成的	知識	指導薬剤師	LSH118 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
34	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH119 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
35	〃	知識	〃	〃	〃
36	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH121 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
37	形成的	技能	指導薬剤師	LSH122 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
38	〃	知識	〃	〃	〃
39	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH123 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
40	形成的	知識	指導薬剤師	LSH124 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
41	〃	技能	〃	〃	〃
42	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH125 の終了時	知識は口頭で行い、技能は観察記録を用いる。
43△	形成的	知識	指導薬剤師	LSH126 の終了時	口頭（チェックリストを用いる）
44△	〃	〃	〃	〃	〃
45△	〃	〃	〃	〃	〃
46△	形成的	態度	指導薬剤師・教員（努力目標）	LSH127 の終了時	レポート・観察記録
47△	〃	〃	〃	〃	〃
48△	〃	〃	〃	〃	〃
49△	〃	知識・技能	〃	〃	実地試験（フォーマットに記載する）

第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

“(Ⅲ) 薬局実習”

総括編：ABCグループ

ABCの3班のプロダクトのすり合わせにおける議論

(3) 薬局調剤を実践する

《服薬指導の基礎》SBOs34～40

ここでは、学生自身による評価も併せて行い、指導薬剤師の評価との違いを認識させる。時期はエットの初期（1～2週）となる。

相手との対応に関する評価は、基礎の段階での評価ということで患者は用いず、指導薬剤師に対してのシミュレーションとなる。

知識の評価では、口頭の他に、予め作成した問題をやらせてもよい。しかし、形成的評価ということでそれは記録に残すものではなく、学生に返却して、その後の軌道修正に用いる。

40の内容には、調剤が含まれており、SBOsとして不備がある。

《服薬指導入門実習》SBOs41～44

入門ということで、指導薬剤師を患者に見たててのシミュレーションを中心となる。題材は過去の処方などを用いる。

また、実際の患者に対して行う場合には、傍に薬剤師がいて不測の事態に対応できるようにする。患者の選択には注意する。

《服薬指導実践実習》SBOs45～49

実際の患者に対して行う。患者の選択は、シミュレーション時を考慮したものとする。

学生を観察するとともに、学生にはレポートを作成させる。

(4) 薬局カウンターで学ぶ

《患者・顧客との接遇》SBOs1～4

1、2に関しては、話し合い及び指導薬剤師の接遇を見学してのレポートとなる。

《一般用医薬品・医療用具・健康食品》SBOs5～6

高度な内容になるため、指導薬剤師によるシミュレーションとなる。

《カウンター実習》SBOs7～10

態度においては、チェックリストを用いて評価する。

学生自身による評価も併せて行い、指導薬剤師の評価との違いを認識させる。

薬局内に、実習生が対応することがあることを明示するとともに、実際に学生が患者に対応する時、あるいは指導薬剤師の服薬指導を見学する時においても、患者には同意を得ることが必要である。（インフォームドコンセント）

「実務実習（コミュニケーション）の評価方法」のプロダクト

SBOs	目的	対象	測定者	時期（ユニットの）	方法
34	形成	知・技	指導薬剤師・学生	初期（1～2w）	口頭、客観
35	形成	知	指導薬剤師・学生	初期（1～2w）	口頭、客観
36	形成	知・技	指導薬剤師・学生	初期（1～2w）	シミュレーション
37	形成	知	指導薬剤師・学生	初期（1～2w）	口頭、客観
38	形成	知	指導薬剤師・学生	初期（1～2w）	口頭、客観
39	形成	技	指導薬剤師・学生	初期（1～2w）	シミュレーション
40	形成	知	指導薬剤師・学生	初期（1～2w）	口頭、客観
41	形成	技	指導薬剤師	中期	シミュレーション・実地(練習)薬剤師が傍にいる
42	形成	技	指導薬剤師	中期	シミュレーション・実地(練習)薬剤師が傍にいる
43	形成	技	指導薬剤師	中期	シミュレーション・実地(練習)薬剤師が傍にいる
44	形成	技	指導薬剤師	中期	シミュレーション・実地(練習)薬剤師が傍にいる
45	形成	態	指導薬剤師	後期	観察、レポート
46	形成	技	指導薬剤師	後期	観察、レポート
47	形成	技・態	指導薬剤師	後期	観察、レポート
48	形成	技・態	指導薬剤師	後期	観察、レポート
49	形成	技・態	指導薬剤師	後期	観察、レポート

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1	形成	態	指導薬剤師	初期	レポート
2	形成	態	指導薬剤師	初期	レポート
3	形成	技・態	指導薬剤師	中期	観察
4	形成	技・態	指導薬剤師	中期	観察
5	形成	技	指導薬剤師	中期	シミュレーション
6	形成	知	指導薬剤師	中期	シミュレーション
7	形成	技・態	指導薬剤師・学生	中期	実地（チェックリスト）
8	形成	技・態	指導薬剤師・学生	中期	実地（チェックリスト）
9	形成	技・態	指導薬剤師・学生	中期	実地（チェックリスト）
10	形成	技・態	指導薬剤師・学生	中期	実地（チェックリスト）

第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

“(Ⅱ) 病院実習”

総括編：DEFグループ

3班それぞれの評価計画を持ち寄り、合同で評価計画を作成した。対象となる実務実習分野は、実務実習コアカリキュラムの「(4) ベッドサイドで学ぶ」であり、SBOs 4～24を対象として作成した。

本セッションのタイトルには「実務実習（コミュニケーション）」とあるが、病院薬剤師の病棟業務を対象としており、SBOsと方略を参考にしつつ、実態に即した評価計画の作成を意図した。

1. 評価の目的はすべて形成的評価であり、学生へのフィードバックがなされるようなものでなければならない点に関して、3班の見解は一致した。
2. 評価の測定者に関しては、指導薬剤師がすべきものとしてほぼ一致した。しかし、SBOsや方略の読み方あるいは実施方法等に関して解釈に違いが生じる部分があり、教員の参加に関して議論がなされた。特にSBOs 24には方略中に「教員の参加が望ましい」との文言があったため、「各大学の事情により教員の参加が有り得る」とした。
3. 時期は、SBOs 23・24のみ実習終了時としたが、その他に関しては、対象の実習中「随時」という表現を中心にとった。それは、SBOs自体が時期を特定できるものは少なく実習期間を通じて学生が学んでいくべきものであるという見解のもとでそういう表現をとらざるを得ない。しかしながら、ある程度段階を踏んで学生の到達度を測るものに関しては、「3回程度」という表現を盛り込んでいる。
4. 方法に関しては、対象とするSBOsの大半が学生の技能・態度を見るものであるからすべてにおいて観察記録は必須とした。その上で知識の比重が高いSBOsや個々の症例を想定できるものに関しては、口頭試問とレポート、態度が中心のものは観察記録中心とした。また、SBOs 20～22については、実際の患者を対象と出来ない場合が想定されるので、そのときはシミュレーションも有り得るとした。また、口頭試問は現場で問うものでもあり、そのチェックに関しては、学生の実習記録も参考にする方向が望ましいとの意見が多かった。

評価計画 病院実習(4)ベッドサイドで学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
4	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録・口頭試問(チェックリスト使用)
5	形成	技能・態度	指導薬剤師(状況に応じて他の医療スタッフ)	実習中随時	観察記録・口頭試問(チェックリスト使用)
6	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録・口頭試問・レポート
7	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録・口頭試問・レポート
8	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録・口頭試問・レポート
9	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録・口頭試問・レポート
10	形成	知識	指導薬剤師	実習中随時	口頭試問・レポート(具体的な症例に対して)
11	形成	知識	指導薬剤師	実習中随時	口頭試問・レポート(具体的な症例に対して)
12	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	口頭試問・観察記録
13	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	口頭試問・観察記録
14	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	口頭試問・観察記録
15	形成	知識・技能	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	口頭試問・観察記録
16	形成	知識・技能	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	口頭試問・観察記録
17	形成	知識・技能	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	口頭試問・観察記録
18	形成	技能・態度	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	口頭試問・観察記録
19	形成	態度	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	口頭試問・観察記録
20	形成	技能	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	観察記録またはシミュレーション・レポート
21	形成	知識・技能	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	観察記録またはシミュレーション・レポート
22	形成	技能・態度	指導薬剤師	実習中随時(3回程度)	観察記録またはシミュレーション・レポート
23	形成	態度	指導薬剤師	実習終了時	観察記録・レポート
24	形成	態度	指導薬剤師(大学の事情により教員)	実習終了時	観察記録・レポート

(参考)

第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」各グループ報告書

Aグループ

実務実習モデル・コアカリキュラムの教育目標および方略にしたがって、評価方法の作成を行なった。

A～C グループでは、各グループで薬局での調剤実習の評価方法を作成し、その後、A～C グループで討議し、3つの班の統一案を作成した。統一案の内容については、他の出席者が報告を行なう。この報告書は、統一案の前のAグループのみで作成した評価方法についてのものです。

GIO：薬局調剤を適切に行なうために、調剤、医薬品の適正な使用、リスクマネジメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

SBOsについては、実務実習モデル・コアカリキュラムの教育目標および方略の（3）薬局調剤を実践するの1～63に対応する。

LS	SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
301	1	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS301の初めと LS327の後	口頭試験
	2	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS333の後	口頭試験
302	3, 4	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS304の初め	口頭試験
	5	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS304初めと LS315の後	口頭試験
303	6	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS304の初め LS315の後	口頭試験
304	7	形成的評価	技能・態度	指導薬剤師	LS304の後	シミュレーション テストと客観試験
	8, 9	形成的評価	態度	指導薬剤師	LS304の後	シミュレーション テストと客観試験
	10	形成的評価	技能・態度	指導薬剤師	LS304の後	シミュレーション テスト
305	11	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS302の初め	実地試験
	12	形成的評価	知識・技能	指導薬剤師	LS333の後	実地試験
306	13	形成的評価	知識・技能	指導薬剤師	LS302の初め	実地試験

307	14	形成的評価	知識・態度	指導薬剤師	LS333 の後	シミュレーション テスト
308	15	形成的評価	技能・態度	指導薬剤師	LS333 の後	シミュレーション テスト
309	16	形成的評価	知識・技能	指導薬剤師	LS310 の後	実地試験
310	17, 18	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS310 の後	実地試験
	19~24	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS310 の後	口答試験
	25	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS310 の後	実地試験
311	26	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS310 の後	口答・実地試験
	27	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS310 の後	実地試験
312	28	形成的評価	知識・技能	指導薬剤師	LS310 の後	実地試験
313	29, 30	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS310 の後	実地試験
314	31	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS310 の後	シミュレーション テストと実地試験
	32	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS310 の後	シミュレーション テストと観察記録
315	33	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS310 の後	シミュレーション テストと実地試験
323	50~52	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS301 の後	口答試験
324	53	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS301 の後	口答試験
325	54	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS301 の後	口答試験
326	55	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS333 の後	実地試験
327	56	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS333 の後	口答試験
328	57	形成的評価	知識・態度	指導薬剤師	LS333 の後	観察記録
329	58	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS333 の後	口答試験
330	59	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS333 の後	口答試験

331	60	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS333 の後	口答試験
332	61, 62	形成的評価	態度	指導薬剤師	LS333 の後	観察記録
333	63	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS333 の後	口答・実地試験

補足) 薬局調剤項目として総括的評価は行なわない。

SBOs の 14、15 (疑義照会) の評価のチェックリストの作成

- 1) 連絡前に資料を揃えたか。
- 2) 自分の名前を伝えたか。
- 3) 相手を確認できたか。
- 4) 言葉使いは適切か。
- 5) 相手の都合に配慮したか。
- 6) 疑義照会の内容をまとめ、適切に伝達できたか。
- 7) 医師の質問に適切に回答できたか。
- 8) 復唱し、再確認したか。
- 9) 記録に残したか。
- 10) 患者に変更点を説明したか。

社団法人 日本薬学会

第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」各グループ報告書

B グループ

はじめに

A、B、C 班が薬局実習の調剤部分の評価法案を検討してまとめ、各班毎にその成果を報告する予定であった。しかし、WS1 日目の討議開始 5 時間後の各班のプロダクト案発表の時点で、各班の内容に共通部分が多かったために、すべての案を修正して統合することができた。この統合された評価案は、別に報告されることになっているために、この項では B 班独自の評価案と特記すべき論点のみを紹介する。

評価案とその作成の経緯

“(3) 薬局実習を実践する。”の各 SBO s に関する B 班の評価案は、最終的には表 1 にまとめることができた。

単位認定責任が大学にあることは全員の共通の認識であり、目的が形成的評価であることに異論はなかった。測定者に関しては、測定者と評価者の区別が意識されずに議論されたため、B 班では当初すべてが指導薬剤師となった。しかし、中間発表の段階で、他班より学生自身に自己評価させる考えが示され、その後の B 班の議論でも学生の自己評価の重要性を確認し、その考えを取り入れるべきだとの意見が出された。しかし、討論時間不足のために表 1 中に具体的に示すことはできなかった。

評価時期に関しては、討論前半では全員の意見がかみ合わない状態があった。大学関係者の多くが、「90 分 x 2 コマ」などの時間的区切りで、SBO s を方略に示された順番に従い実習が行われるとの思い（錯覚）に捕らわれていたことが、その理由のひとつと思われる。討論半ばの段階で、薬局薬剤師の方々より「病院での実習では、製剤、調剤、病棟などの実習が一定の期間で明確に区切って行われるかもしれないが、薬局実習では、調剤はすべての実習期間（すなわち 2.5 ヶ月の間）で行う事が原則になる。したがって、調剤関連の多くの SBO s は、全実習期間を通じて学生の習得度を評価して指導を続けることになるはずで、時期を定めて一回だけ特別に評価することは現実的ではない。」との主旨の発言があり、長期薬局実習の共通のイメージが参加者全員に形成された。その後は、評価の時期を複数回設けることで全員の意見が一致した。ただし、評価の時期に目安は必要であるとの認識から、実習時期を 3 週間ごとに区切って行う計画案を設定した。時期は、表 1 と図 1 に示した。直接的な調剤行為に関連する SBOs3-32 については、3 週間ごとに評価の水準をグレードアップすべきとの意見の一致を見たが、その具体的な評価案を設定することはできなかった。

この 3 週間程度を節目にした評価実施案は、他の班でもほぼ同様の案が提案され、評価の時期については、この考えで全国的に統一することが可能だと思われた。

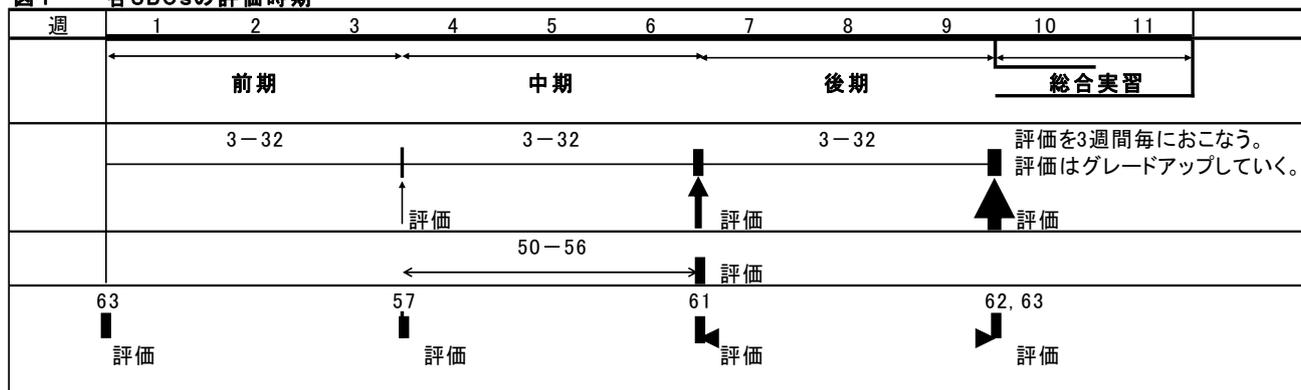
客観的評価のための、評定尺度案やチェック表も考案したが、最終的な統合案とほぼ同様であり、ここでは省略する。

感想

- 1) 参加者が、長期薬局実習のスケジュールが十分にイメージできないままで討論を開始した嫌いがある。そのため、SBOs ごとの小部分の評価の議論に陥ることがあり、いわゆる“木を見て森を見ない”状態となることがあった。この弊害を防ぐためには、今回のWSの第3部で行ったような、薬局実習全体のスケジュールアップを同時に（もしくは先んじて）行うべきである。特に、現在の4年制での薬局実習は非常に短期で行われているために、方略案との乖離が大きく、病院実習以上に議論が必要だと思われる。
- 2) 方略の中に、“学生が患者や薬物療法の問題を見つけ、悩み考える。”といった部分（時間）が少なく、ともすれば、“テキパキと調剤を行うことができる”学生を作ることが目標になっているように思われる。もっと、医療人として自覚を持ち、目の前の患者に対し共感し、悩むことを評価する必要があると思われる。

社団法人 日本薬学会

図1 各SBOsの評価時期



図中の数字は(Ⅲ)薬局実習でのSBOsの番号

表1 第一部 調剤の評価法作成

Bグループ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1 & 2	形成的評価	知識	指導薬剤師	説明終了後	小テスト 口頭試問
3~6	↑	知識	↑	実習期間中段階的に	口頭
7		技・態		観察・口頭・実地	
8		態			
9		技・態			
10		技			
11~13		知識・技			
14 & 15		知識・技・態			
16		知識		3・6・9w	小テスト
17 & 18		技			観察・口頭・実地
19~24		知識			
25	技				
26	知識				
27	技				
28	知識・技				
29~31	技		↓	↓	
32		技(薬局によって知識)			(要検討)
33		技		6・9w	観察
50~54		知識		6w	口頭
55		技		6w	実地
56		知識		6w	口頭
57		知識・態		3w	レポート・観察
58~60		知識		3・6・9w	小テスト・口頭
61		態		6w	観察
62		態		9w	観察
63		知識(技)		1w & 9w	実地

SBOs32は、抗悪性腫瘍剤の取り扱いを含むため、実習できない薬局があるとの指摘があった。

第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」各グループ報告書

Cグループ

本セッションでは実務実習モデル・コアカリキュラム（Ⅲ）薬局実習「（3）薬局調剤を実践する」の中の服薬指導以外の SBO に対する評価方法を検討した。

評価方法で一番議論的になった点は、技能評価で実際の患者さんの処方箋に従って調剤することにより評価することができるかであった。シミュレーション（模擬処方箋を用いた調剤）を行うのでは、大学で行うのと差がない、しかし患者さんの処方箋に基づいた調剤を実際に調剤させられないのではないかと、この点は明確な結論が得られていないが現場の薬剤師の先生方の多くは実際の処方箋に基づいて調剤をすることには前向きであった。麻薬などの特殊なものに関してはシミュレーションを行うことでは意見が一致していた。実際の患者さんの処方箋を用いるにしても、実習中に目的にかなった処方箋が来ないこともあるので、実地試験にシミュレーションを加えて評価を行うこととした。また、知識を評価する場合に口頭試験などのような方法は現場薬剤師が時間を割くことが難しいので、論述で評価する方法が本グループでは主流となっていた。また、測定者には殆どの SBO に対して指導薬剤師を設定したが、一部の SBO では学生による自己評価も考え学生も測定者に入れた SBO もある。特に目的が全部形成的評価になったが、検討中には SBO 8 については総括的評価を行うべきであるとの議論がなされ、発表時には総括的評価であったが、他グループとの討論により、本 SBO も取敢えずは形成的評価でよいとの結論に達した。測定の時期に関しては、随時と表現した SBO が多いが、これは日常業務の中で行う薬局実習では、大学で行う実習のように明確に実習項目を分けて行うことは困難であるとの判断から、ある SBO に相当する実習を行った時に適宜評価を行い、学生にそのつどフィードバックし技能・態度を修得してもらいたいとの考えからである。更に、評価のための実習にならないようにとの考えもあった。

全般的に、評価方法の解釈に差があるために議論に時間を費やした傾向があるが、参加者の思いには大きな隔たりはなく、学生のためになる実習を考えている点では一致していた。また、我々のグループで決めた評価方法ではかなりの時間が掛かることが気がかりであるが、ただ単に参加するだけの実習を否定したい気持ちの現れであると考えられる。

実務実習の目標・方略・評価の作成に参加して感じたことは、目標作成時には大学教員がかなりの内容を希望する傾向にあり、それに対して現場薬剤師は消極的に見受けられたが、方略あるいは評価の作成時にはその姿勢は逆転し、現場薬剤師の先生方の方が積極的に学生に実務を行わせようとする姿勢がうかがえた。

<評価方法>

SBO	目的	対象	測定者	時期	方法
1	形成	知識	指導薬剤師	pre・post	pre は口頭、post は客観
2	形成	知識	指導薬剤師	post	レポート
3	形成	知識	指導薬剤師	ユニット始め	口頭・レポート
4	形成	知識	指導薬剤師	ユニット始め	口頭・レポート
5	形成	知識	指導薬剤師	ユニット始め	口頭・レポート
6	形成	知識	指導薬剤師	ユニット始め	口頭・レポート
7	形成	技能・ 態度	指導薬剤師	随時	観察・チェックリスト
8	形成	態度	指導薬剤師	全期間・Post	観察・レポート
9	形成	技能・ 態度	指導薬剤師・ 学生	随時・最後	観察・自己評価
10	形成	技能	指導薬剤師・ 学生	随時	観察・自己評価
11	形成	技能	指導薬剤師	随時	シミュレーションテスト
12	形成	知識・ 技能	指導薬剤師	随時	シミュレーションテスト
13	形成	知識・ 技能	指導薬剤師	随時	シミュレーションテスト
14	形成	知識・ 技能	指導薬剤師	随時	シミュレーションテスト
15	形成	技能・ 態度	指導薬剤師	随時	シミュレーションテスト
16	形成	知識	指導薬剤師	随時	実地試験(チェックリスト)
17	形成	技能	指導薬剤師	随時	実地試験(チェックリスト)
18	形成	技能	指導薬剤師	随時	実地試験(チェックリスト)
19	形成	知識	指導薬剤師	随時	論述(4段階評価)
20	形成	知識	指導薬剤師	随時	論述(4段階評価)
21	形成	知識	指導薬剤師	随時	論述(4段階評価)
22	形成	知識	指導薬剤師	随時	論述(4段階評価)
23	形成	知識	指導薬剤師	随時	論述(4段階評価)
24	形成	知識	指導薬剤師	随時	論述(4段階評価)
25	形成	技能	指導薬剤師	随時	実地試験(チェックリスト)
26	形成	知識	指導薬剤師	随時	論述
27	形成	技能	指導薬剤師	随時	実地・シミュレーションテスト
28	形成	知識・ 技能	指導薬剤師	随時	実地・シミュレーションテスト
29~31	形成	技能	指導薬剤師	随時	実地・シミュレーションテスト
32	形成	技能	指導薬剤師	随時	実地・シミュレーションテスト
33	形成	技能	指導薬剤師	ユニット終了時	チェックリスト
50~54	形成	知識	指導薬剤師	ユニット終了時	チェックリスト。客観試験
55	形成	技能	指導薬剤師	ユニット終了時	チェックリスト
56	形成	知識	指導薬剤師	ユニット終了時	シミュレーションテスト

57	形成	知識・ 態度	指導薬剤師	一番最後	論述試験
58～60	形成	知識	指導薬剤師	ユニット終了時	論述試験の5段階評価
61	形成	態度	指導薬剤師	ユニット終了時	論述(レポート)試験
62	形成	態度	指導薬剤師	ユニット終了時	論述(レポート)試験
63	形成	知識	指導薬剤師	ユニット終了時	シミュレーションテスト・ チェックリスト

<評価表>

SBO 7	Yes	No
笑顔・挨拶	___	___
丁寧な言葉遣い	___	___
名前・日付確認 (処方箋)	___	___
「少々お待ちください」の一言	___	___

SBO 8
レポート、観察記録に基づいた5段階評価 (学生の自己評価も考慮する)

SBO14 (シミュレーション/チェックリスト)	Yes	No
資料をそろえたか (薬歴、関係文献、患者からの情報)	___	___
電話で話す内容を整理できたか	___	___

SBO15

* 14を踏まえたうえで

電話での仕方	Yes	No
・ 相手の都合確認	___	___
・ 自分の薬局名と自分の名前	___	___
・ 患者の名前	___	___
・ 照会内容	___	___
・ 内容の再確認	___	___
・ お礼の一言	___	___
患者への説明	___	___
記録 (調剤録、薬歴)	___	___

第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」各グループ報告書

E グループ

(II) 病院実習方略

- * 評価方法として、客観試験・観察記録・チェックリスト・口頭試問・実地試験があげられるが、観察記録・チェックリスト・口頭試問が实际的である。
- * 実習生には各 SBOs(必ずしも SBOs 別とは限らない)の実習内容や感想を実習日誌として記録させる。測定者（指導薬剤師、教員）は各実習項目の終了時に実習日誌に目を通す。なお、実習指導中の指導薬剤師（測定者）の薬学生に対する質問と応答(口頭試問、質疑応答)は重要であるため、そのやり取りを薬学生には必ず日誌に記録させる。
- * 指導薬剤師(測定者)の負担を軽減するために、実習中の口頭試問（質疑応答を含む）を評価方法の1つとする
- * 教員の派遣については、大学と薬剤師間のみならず病院の規模、附属病院の有無、地域、調整機構を活用するかなどの点でも意見が異なった。将来、調整機構を活用するか、否かに分けて、あるいは別途に論議を進める必要があるかもしれない。

(1) 病院調剤を実践する

- * 病院実習の最初の項目であるため、出来るだけ教員の派遣（可能であれば、測定者として機能させる）を考慮する。
どのように派遣するかは、各大学や調整機構で知恵を出し合う。
- * 注射薬調剤、例えば混合操作等は実際に実習することが望ましい。また、事前学習の折に可能であれば、実施して欲しいという意見もあった。
- * なお、施設によっては散剤・液剤の調製は実地試験も可能である。但し、実施には実地試験に用いる医薬品代および実地試験に要する時間に対して、実習費や派遣教員の協力などの配慮が必要である。
- * 薬物療法に用いる医薬品調剤であるため、薬学生の真剣さと同時に感動を評価方法を取り入れることが望ましい。これは測定者の観察記録で対応できると考える。

到達目標(SBOS)	目的	対象	測定者	時期	方法
《病院調剤業務の全体の流れ》					
1～6	形成的	知識	指導薬剤師、教員	H101とH102終了後	レポート (具体的な題目を提示)
《計数・計量調剤》 項目によってはチェックリストを使用する					
7	形成的	知識	指導薬剤師	実習中	観察記録
8	〃	知識・(技能)	指導薬剤師	〃	〃
9	〃	〃	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃	〃	〃
11	〃	知識・態度	〃	〃	〃
12	〃	知識・(技能)	〃	〃	〃
13	〃	技能	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃	〃	〃
15	〃	知識	〃	〃	〃
16	〃	技能	〃	〃	〃
17	〃	知識	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃	〃	〃
19	〃	技能	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃	〃	〃
21	〃	知識・技能	〃	〃	観察記録・ 口頭試問
22	〃	技能	〃	〃	観察記録・ 口頭試問
23	〃	〃	〃	〃	〃
24	〃	知識	〃	〃	客観試験・ 口頭試問
25	〃	技能	〃	〃	観察記録
26	〃	知識・技能	〃	〃	観察記録・ 口頭試問

27	〃	技能	〃	〃	観察記録
《注射剤調剤》					
33	形成的	知識	指導薬剤師	実習中	観察記録・ 口頭試問
34	〃	知識・技能	〃	〃	観察記録・ 口頭試問
35	〃	技能	〃	〃	観察記録
36	〃	知識・技能	〃	〃	観察記録・ 口頭試問
37	〃	技能	〃	〃	観察記録
38	〃	知識	〃	〃	口頭試問
39	〃	技能	〃	〃	観察記録
40	〃	知識	〃	〃	口頭試問
41	〃	技能	〃	〃	観察記録
42	〃	技能	〃	〃	観察記録
《安全対策》					
43	形成的	知識	指導薬剤師	実習中	観察記録・ 口頭試問
44	〃	〃	〃	〃	〃
45	〃	〃	〃	〃	〃
46	〃	態度	指導薬剤師、教員	〃	観察記録
47	〃	〃	〃	〃	〃
48	〃	〃	〃	〃	レポート
49	〃	技能	〃	〃	レポート

第一部「実務実習（調剤）の評価方法の作成」各グループ報告書

Fグループ

実務実習モデル・コアカリキュラム「病院調剤」の各 SB0s について、評価の目的、測定する対象（知識・技能・態度）、測定者、実施時期、測定の方法（論述、観察記録など）について検討を行い、下記の評価計画表を作成した。尚、検討は実務実習モデル・コアカリキュラムの LS に準拠して行い、実施時期についてはその LS 番号で記載した。さらに、SB0s（技能・態度）の一部について評価表の作成を試みた。

【話し合いの概要】

1) 案作成の前提条件

- ・ 実習生は5名とし、学生1名当たり150床で約750床の規模の病院での実習を想定する。
- ・ 複数の大学からの混成で実習することを前提とし、どの大学でも評価に使用することが可能なものを作る。
- ・ 病院実習を先に実施することとし、△も実習項目とする。

2) 主な論点

- ・ 教員が測定者として加わることが現実的に可能か？
→ 将来を見込んで努力目標とするのか、現実を重視した案を作るのかを様々な観点から議論した結果、グループ案としては、努力目標とすることとした。ただし、ここでいう「教員」は、病院で医療に従事していない教員を指す。概して、「教員」の定義が曖昧であることが議論をかみ合わなくさせている一因と考えられる。従って、臨床現場で実務を行っている教員は指導薬剤師として測定者に含まれている。
- ・ 認定薬剤師は評価者として公式に認められるのか？
→ 今回議論すべきなのは測定者である。例えば学生が測定者となることも可能である。測定者からの情報を元に評価するのは、原則大学である。
- ・ 測定者に過度の負荷がかからないことも考慮すべきである。
- ・ また、測定結果を紙面で残すことと過度の負荷がかからないことを両立させる工夫が必要。
→ 実習中に随時口頭試問を行い、その内容と回答を学生が実習日誌に記録として残すことにより、紙面で記録を残すことと測定者に過度の負荷がかからないことの両立が可能になるのではないかと考えた。また、必要に応じてチェックリストを作り、それを実習日誌に貼り付けることも有用である。
- ・ 教育効果を高めるためにはどうすべきか？

→フィードバックを主な目的とし、必要に応じて繰り返し行う。

3) その他

- ・ 評価計画の作成に多くの時間を割いたため、評価表の作成の議論を十分に行うことが出来なかった。また、事前実習との整合性も考慮し、第四回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ「実務実習事前学習の実現に向けての評価方法作成に関する教育者ワークショップ 2004年12月5日」報告書(資料2)に記載されている、チェックリスト等をたたき台として案を作ることにした。

【到達目標】

(1) 病院調剤を実践する

一般目標：

病院において調剤を通して患者に最善の医療を提供するために、調剤、医薬品の適正な使用ならびにリスクマネジメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

SBOs：

《病院調剤業務の全体の流れ》

1. 患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。
2. 病院内での患者情報の流れを図式化できる。
3. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
4. 薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。
5. 処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。
6. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。

《計数・計量調剤》

7. 処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる。
- 8△. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。
- 9△. 代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。
- 10△. 薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。
- 11△. 適切な疑義照会の実務を体験する。
- 12△. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。
- 13△. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能)
- 14△. 錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。(技能)
- 15△. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
- 16△. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。(技能)

- 17△. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
- 18△. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
- 19△. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
- 20△. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。(技能)
- 21△. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)
- 22△. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能)
- 23△. 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる。(技能)
- 24△. 細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。
- 25△. 特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)
- 26△. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)
- 27△. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)

《服薬指導》

- 28△. 患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。(知識・技能)
- 29△. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。
- 30△. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。
- 31△. お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。
- 32△. 期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する。(知識・態度)

《注射剤調剤》

- 33. 注射剤調剤の流れを概説できる。
- 34. 注射処方せんに記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。(技能)
- 35. 代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。(技能)
- 36. 処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる。(知識・技能)
- 37. 注射剤(高カロリー栄養輸液など)の混合操作を実施できる。(技能)
- 38. 注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
- 39. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。(技能)
- 40. 細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。
- 41. 特別な注意を要する注射剤(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)
- 42. 調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。(技能)

《安全対策》

- 43△. リスクマネージメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。
- 44△. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。
- 45△. 商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。
- 46△. 医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。(態度)
- 47△. インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネージ

メントについて討議する。(態度)

48△. 職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。(態度)

49△. 実習中に生じた諸問題(調剤ミス、過誤、事故、クレームなど)を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。(技能)

【評価計画】

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1	形成的	知識	指導薬剤師	LSH101の終了時	口頭
2	〃	〃	〃	〃	レポート・論述
3	〃	〃	〃	〃	口頭
4	形成的	知識	指導薬剤師	LSH102の終了時	口頭
5	〃	〃	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃	〃	〃
7	形成的	知識	指導薬剤師	LSH103の終了時	口頭
8△	形成的	知識	指導薬剤師	LSH104の終了時	〃
9△	〃	〃	〃	〃	〃
10△	〃	〃	〃	〃	〃
11△	形成的	知識・技能・態度	指導薬剤師	LSH105の終了時	観察記録
12△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH107の実習中(途中と終了時に複数回実施)	〃
13△	〃	技能	〃	〃	〃
14△	〃	技能	〃	〃	〃
15△	〃	知識	〃	〃	口頭
16△	〃	技能	〃	〃	実地試験
17△	〃	知識	〃	〃	口頭(チェックリストを用いる)
18△	〃	〃	〃	〃	〃
19△	〃	〃	〃	〃	〃
20△	形成的	技能	指導薬剤師	LSH108の終了時	観察記録
21△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH109の終了時	口頭・観察記録
22△	形成的	技能	指導薬剤師	LSH110の終了時	観察記録
23△	〃	〃	〃	〃	〃
24△	形成的	知識	指導薬剤師	LSH111の実習中(複数回実施)	観察記録
25△	〃	技能	〃	〃	〃
26△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH112の実習中(複数回実施)	口頭・観察記録
27△	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH113の体験中	観察記録
28△	形成的	知識・技能・態度	指導薬剤師	LSH114の実習中(複数回実施)	レポート・観察記録
29△	形成的	知識・技能・態度	指導薬剤師	LSH115とLSH116の実習中(複数回実施)	観察記録・レポート・シミュレーション

30	〃	〃	〃	〃	〃
31	〃	〃	〃	〃	〃
32	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH117 の実習中（複数回実施）	観察記録
33	形成的	知識	指導薬剤師	LSH118 の終了時	口頭
34	形成的	知識	指導薬剤師	LSH119 の終了時	口頭（チェックリストを用いる）
35	〃	〃	〃	〃	〃
36	形成的	技能	指導薬剤師	LSH121 の実習中（複数回実施）	観察記録
37	形成的	技能	指導薬剤師	LSH122 の実習中（複数回実施）	観察記録
38	〃	知識	〃	〃	口頭（チェックリストを用いる）
39	形成的	知識	指導薬剤師	LSH123 の実習中（複数回実施）	観察記録
40	形成的	知識	指導薬剤師	LSH124 の実習中（複数回実施）	観察記録
41	〃	技能	〃	〃	〃
42	形成的	知識・技能	指導薬剤師	LSH125 の実習中（複数回実施）	観察記録
43	形成的	知識	指導薬剤師	LSH126 の実習中（複数回実施）	観察記録
44	〃	〃	〃	〃	口頭（チェックリストを用いる）
45	〃	〃	〃	〃	口頭（チェックリストを用いる）
46	形成的	知識・態度	指導薬剤師	LSH127 の実習中（途中と終了時に複数回実施）	レポート・観察記録。シミュレーション
47	〃	〃	〃	〃	レポート・観察記録。シミュレーション
48	〃	〃	〃	〃	レポート・観察記録。シミュレーション
49	〃	知識・技能	〃	〃	レポート・観察記録

【評価表】

表1 評価表リスト（一覧）

SB0s	評価表様式等
------	--------

	表2
11	不要
12	チェックリスト (資料-2 の p34)
13	チェックリスト (資料-2 の p34)
14	できた、できないのチェックリスト
17	できた、できないのチェックリスト
18	できた、できないのチェックリスト
19	チェックリスト (資料-2 の p34)
20	チェックリスト (資料-2 の p34)
21	チェックリスト (資料-2 の p34)
22	できた、できないのチェックリスト
23	

表2

SB011 「適切な疑義照会の実務を体験する」の評価表 (知識・技能・態度)

	はい	いいえ
1) 連絡する前に資料を揃えたか?	_____	_____
2) 自分の名前は伝えたか?	_____	_____
3) 挨拶はしたか?	_____	_____
4) 言葉遣いは適切であったか?	_____	_____
5) 相手の都合に配慮したか?	_____	_____
6) 代替案を提示できたか?	_____	_____
7) 記録を残したか?	_____	_____

処方せん (はい)

- ・ 名前
- ・ 自分の名前
- ・ 照会内容
- ・ 照会方法
- ・ 回答の結果

第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

各グループ報告書

Aグループ

(Ⅲ) 薬局実習 (3) 「薬局調剤を実践する」の《服薬指導の基礎》《服薬指導入門実習》《服薬指導実践実習》及び (4) 「薬局カウンターで学ぶ」の《患者・顧客との接遇》《一般用医薬品・医療用具・健康食品》《カウンター実習》

【議論の経緯】

上記の評価方法を作成するにあたり、違法性の阻却に関する問題とそれぞれのSBOsの評価がLS実行時のどの時点で行われるべきか、実際に実務実習におけるスケジュールがどのように施設で実施されているか状況を再確認し、評価を行うための適切なタイミング及び患者・顧客とのかかわりについて討議を開始した。その結果、指導薬剤師の管理下に基づいた体験型学習が実務実習の基本であることから、指導薬剤師が安易に模擬患者となり、シミュレーションを行うべきではなく、可能な限り指導薬剤師が患者もしくは顧客のインフォームドコンセントを得て、実習者に学内では対応できない体験をさせることに主眼を置くことが重要であり、その状況下で測定者が妥当性の高い方法による評価を適切に行える状況を推考していくべきであるとの合意を得た。なお、受入れ施設の状況によるが、指導薬剤師が実習生の習熟度等を考慮し、患者・顧客のインフォームドコンセントが得られない場合等ではシミュレーションの選択を考慮するとした。

- 1) 服薬指導の基礎 (34～40) について、ユニット《実務実習事前学習》で習得された知識・技能をプレテストすること、習熟度にあわせた学習計画を立てることについての議論があった。
- 2) 服薬指導入門実習 (41～44) について、指導薬剤師の立会いの下、用法・用量の説明、処方薬の推移等、定型的な指導に限る、との結論を得た。
- 3) 服薬指導実践実習 (45～49) は、LS毎の到達状況の評価した後に実施するものとする。
- 4) 服薬指導入門実習及び服薬指導実践実習における評価時期は、患者対応を行った直後に観察した指導薬剤師が形成的評価を実習者にフィードバックすることが重要である。すなわち、タイムラグはできるだけ少なくすることを念頭に置く。
- 5) 《薬局カウンターで学ぶ》について、取り組み方についてかなりの議論が行われた。顧客・患者との接点の保ち方は非常に難しく、受付窓口で実際にどのような患者・顧客対応が行われているのか、受診勧告の難しさなどの点が協議され、到達目標の実務実習での実現性が焦点となった。

薬局内の業務状況は教室等で区別できる学内と異なり、一連の流れが確立され実行されている。つまり、モデル・コアカリキュラムのSBOsすべてが同時進行している状況下と

同じであり、学習すべきすべての情報が同時に実習生に与えられることになる。特に患者と接する服薬指導に関しては、1) ⇒ 2) ⇒ 3) と適切に Stepup できるよう指導薬剤師のアドバイスと見極めが重要である。

【評価計画】

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
34・35	形成的	知識・技能	指導薬剤師	P321の前	口頭・客観
36		知識・技能		P321の前	シミュレーション
37・38		知識		P321の前	口頭・客観
39		技能		P321の前	シミュレーション
40		知識		P321の前	口頭・客観
41～44		技能		実習中	シミュレーション・実地
45		態度		実習中	シミュレーション・実地
46		技能		実習中	シミュレーション・実地
47～49		態度・技能		実習中	シミュレーション・実地
Ⅲ《4》					
1・2		態度		1クール後	レポート
3・4		態度・技能		実習中	口頭
5		技能		実習中	口頭・シミュレーション
6		知識		実習中	実地
7～10		態度・技能		実習中	実地

【評価表：薬局カウンターで学ぶ】《カウンター実習》SBOs (7～9)

評価表	(チェックリスト)	
SBOs(7・8・9)		
呼びかけ	できた	できない
Open Ended Question	できた	できない
丁寧な言葉遣い	できた	できない
分かりやすい言葉	できた	できない
適切なアイコンタクト	できた	できない
積極的な傾聴	できた	できない
共感的な言葉掛け	できた	できない
共感的な対応	できた	できない
SBO(9)追加		
使用薬剤の確認	した	していない
効果のモニタリング	した	していない
副作用のモニタリング	した	していない

第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

各グループ報告書

Bグループ

実務実習コア・カリキュラムは、目標と方略が明記されています。

今回のアドバンスワークショップでは、「薬局調剤を実践する」という実際に現場においての評価を考えるユニットが与えられた。

その中で第一部調剤の評価方法の作成に続き、第二部では、コミュニケーションの評価方法の作成を行った。

グループの中で行った評価の内容や問題点を整理しました。

但し、患者・顧客との接遇と一般用医薬品・医療用具・健康食品は十分な議論をする時間が取れなかった。

《服薬指導の基礎》

1. 全体を通して知識を問う SBOs で薬歴管理の意義や重要性を認識できるようにレポートまたは日誌に記載させる
2. 技能問う SBOs は複数の薬歴(模擬薬歴)簿の作成を必要とし、指導薬剤師による指導で問題点を明確にして日誌等に記載をさせる

《服薬指導入門実習》

3. 全て技能を問う SBOs なので実際に指導薬剤師が行う服薬指導の見学をする
4. 指導薬剤師の服薬指導を見学した処方内容でシミュレーションが出来ることが望ましい
5. 服薬実践実習に入る前なのでシミュレーションを反復し、チェックリストを作成し1つずつの SBOs について「出来た・出来ない」を確認する
6. シミュレーションでは指導薬剤師が「良かった所・改善を必要とする所」を指導し、日誌等に記載をさせる
7. チェックリストを作成して評価をし、学生にフィードバックをする

《服薬指導実践実習》

8. 特に態度については実践実習で重要な評価になるので、評定尺度を作成して学生にも同じように自己評価をさせる
9. なるべく多くの症例を経験させ、学生に実践実習での自己評価の機会を多く与えたい
10. 実践実習の場でも指導薬剤師が「良かった所・改善を必要とする所」を指導し日誌等に記載をさせる(シミュレーションとの違いを感じる)

《患者・顧客との接遇》

11. 態度が対象となる SBOs 1 について、いったい何を話し合うのか意味不明と言う意見があった
12. 接遇やアドバイス等を必要とする実践実習なので態度・技能の評定尺度を作成して学生にも同じように自己評価をさせる

《一般用医薬品・医療用具・健康食品》

13. この SBOs はセルフメディケーションや顧客に合った対応が求められ学生自身が測定者になり指導薬剤師の評価とのギャップを埋めていく

《カウンター実習》

14. チェックリストは実習薬局の状況や個々の患者の状態によって複数のリストが必要ではないかという意見
15. 患者から顧客という視点での実践実習なので紙オムツ1個の対応も含め複数の症例を体験させたい
16. 体験した顧客対応で「良かった所・改善を必要とする所」を指導し日誌等に記載をさせる

《全体を通して》

17. 評価計画表にあるレポートは学生が毎日記入する日誌で代用としている
18. 評価の為の実習でなく学生がステップアップしていく実務実習を目指していくので評価の目的は全て形成的評価にした

【評価計画表の作成】

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
34~40	形成的	知識・技能	指導薬剤師・学生	1クール	実地(薬歴簿作成)レポート(複数回)
41~44	形成的	技能	指導薬剤師	1クール	シミュレーション(チェックリスト)
45	形成的	態度	指導薬剤師・学生	1・2クール	観察(評定尺度)レポート(複数回)
46~49	形成的	技能・態度	指導薬剤師・学生	1・2クール	観察(評定尺度)レポート(複数回)
1~4	形成的	技能・態度	指導薬剤師・学生	1・2クール	観察(評定尺度)レポート(複数回)
5	形成的	技能	指導薬剤師・学生	1・2クール	実地
6	形成的	知識	指導薬剤師・学生	1・2クール	レポート(複数回)
7~9	形成的	技能・態度	指導薬剤師・学生	1・2クール	観察(チェックリスト)レポート(複数回)
10	形成的	技能・態度	指導薬剤師・学生	1・2クール	観察(チェックリスト)レポート(複数回)

*時期における1クール、2クールは1クール3~4週間を想定している

《カウンター実習》SBOs 7～9のチェックリスト

チェック内容	評 価			
<u>はじめに</u>				
・呼びいれ	良	い・	普 通	・ 悪 い
・自己紹介	良	い・	普 通	・ 悪 い
・同じ目の高さで挨拶	良	い・	普 通	・ 悪 い
・患者の訴えを聞く	良	い・	普 通	・ 悪 い
・服薬指導等の指導が出来た	良	い・	普 通	・ 悪 い
<u>情報収集と指導</u>				
・必要な情報収集が出来た	良	い・	普 通	・ 悪 い
・服薬等の必要な指導が出来た	良	い・	普 通	・ 悪 い
<u>クロージング</u>				
・聞き漏らしや質問がないか尋ねる	良	い・	普 通	・ 悪 い
・締めくくりの言葉を使う	良	い・	普 通	・ 悪 い

社団法人 日本薬学会

第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

各グループ報告書

Cグループ

《服薬指導の基礎》～《服薬指導実践実習》 評価 C班

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
34	形成	知識・技能	指導薬剤師	初期	(必要な項目を集められるか)シミュレーション
35	形成	知識	指導薬剤師	初期	口頭
36	形成	知識・技能	指導薬剤師	初期	シミュレーション
37・38	形成	知識	指導薬剤師	初期	口頭
39	形成	技能	指導薬剤師	初期	シミュレーション
40	形成	知識	指導薬剤師	初期	口頭
41～44	形成	技能	指導薬剤師	中期	シミュレーション チェックリスト
45	形成	態度	指導薬剤師	後期	実施 項目 総合・測定尺度
46～49	形成	技能	指導薬剤師	後期	実施 (評定尺度)

【実習生の能力により
時期は異なることあり】

(4) 薬局カウンターで学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
レポート	形成	態度	指導薬剤師	中期	〔 標題を提示し 感じたことも 〕
2～4	形成	技能・態度	指導薬剤師	中期	観察 (チェックリスト)
5	形成	技能	指導薬剤師	中期	観察 (チェックリスト)
6	形成	知識	指導薬剤師	中期	口頭
7	形成	技能・態度	指導薬剤師 実習生		→ 実施 (チェックリスト) → 自己申告 (具体的に)
	形成				
8	形成	技能・態度	指導薬剤師	後期	観察 (チェックリスト)
9	形成	技能・態度	指導薬剤師	後期	観察 (チェックリスト)
10	形成	技能・態度	指導薬剤師	後期	観察 (チェックリスト)

時期の前・中・後期は、このユニットの前中後期を指す。第何週という表記も検討したがこの表現に決めた。

34～40は導入部分のため、比較的軽い評価とした。

41～44の評価は、実践実習が不可の判断をする評価となるため、実習生の習熟度により時期は異なると考えられる。

SBOs7の・工夫する・の評価において、実習生の自己申告及び自己チェックリストも参考にして・工夫・を評価する。

(4) 薬局カウンターで学ぶ

《カウンター実習》評価チェックリスト

7. 顧客が自ら進んで話ができるように工夫する (技能・態度)

①笑顔・あいさつ	⑤話を聴く姿勢
②目で受け入れる	⑥前傾姿勢
③ていねいな言葉づかい	⑦身だしなみ
④開かれた質問	

8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する (技能・態度)

①～⑦に加え

⑧傾聴	⑪順序立った質問
⑨共感	⑫記録
⑩反復	

9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる(技能・態度)

①～⑫に加え

⑬コンプライアンスのチェック
⑭患者の現在の状況に対する質問 (オープンで)
⑮患者が不安にならない、わかり易い、適切な言葉で
⑯キーワードを見逃さない

いずれも、YES, NOの評価

第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

各グループ報告書

Dグループ

公表されている「実務実習モデル・コアカリキュラム」（以下、実務実習コアカリ）には、カリキュラムの三要素である「目標」「方略」は含まれているが、「評価」が含まれていない。このことから今回のアドバンスワークショップでは「評価計画」を作成することとなった。第2部では、実務実習におけるコミュニケーションとして、実務実習コアカリにある「(II) 病院実習」の「(4) ベッドサイドで学ぶ」について、SBOs ごとに「評価計画（案）」を作成した。

【SGD の主な内容】

1. SBOs 中の用語（例えば、専門用語）が漠然とした表現で示されており、その意味するところがどの範囲までなのかで評価内容が異なってくるとの意見が出されたが、その議論をしては收拾がつかなくなってしまうため、今回はグループ内での同意の下で議論を進めていくこととした。
2. 技能・態度に関する SBOs の評価方法については、当然知識を伴うものであり、その点の評価は測定者の負担を考慮し、口頭での評価とした。
3. 薬剤管理指導業務の実習では、学生の積極性を見ていくことが重要であるため、観察記録を多用することで評価していくこととした。
4. 実習は系統の異なる病棟（例えば、外科系と内科系）で2クール行うことを前提とし、評価の時期については、1クールごとに随時行うこととした。
5. 医師・看護師が関わる部分（特に、LS H402）については、実際にコミュニケーションした側からの測定が重要と考え、測定者として医師・看護師にも加わってもらうこととした。
6. SBOs12～22 は、実際には一連の流れとして行っていくものであるため、評価としてはまとめたほうがよいとの意見があった。
7. SBOs13～19 の中から一つのチェックリストを作成することとなったが、13～19 全部まとめて作成するほうが実際的である。しかし、今回は時間的にも作成困難であり、SBOs17 のみのチェックリストを作成することとした。

【到達目標】

(4) ベッドサイドで学ぶ

一般目標 GIO :

入院患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために、薬剤師病棟業務の基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標（行動目標）SBOs：

《医療チームへの参加》

4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。(技能)
5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。(技能・態度)

《薬剤管理指導業務》

6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。(技能)
7. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴など）。(技能)
8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。(技能)
9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。(技能)
10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。
11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。(技能・態度)
13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。(技能・態度)
14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。(技能・態度)
15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。(知識・技能)
16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。(知識・技能)
17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。(知識・技能)
18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。(技能・態度)
19. 患者に共感的態度で接する。(態度)
20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。(技能)
21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。(知識・技能)
22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。(知識・態度)

《処方支援への関与》

23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度)
24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)

【評価計画】

SBOs	目的	対 象	測定者	時 期	方 法
4	形成的	技能	指導薬剤師, 医師, 看護師	随時 (1 ケルごとに)	観察記録
5	〃	(知識), 技能, 態度	〃	〃	(口頭), 観察記録
6	形成的	技能	指導薬剤師	随時 (1 ケルごとに)	口頭, 観察記録
7	〃	〃	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃	〃	〃
10	形成的	知識	指導薬剤師	随時 (1 ケルごとに)	口頭, 観察記録
11	〃	〃	〃	〃	〃
12	〃	技能, 態度	〃	〃	〃
13	形成的	技能, 態度	指導薬剤師	随時 (1 ケルごとに)	口頭, 観察記録, チェックリスト
14	〃	〃	〃	〃	〃
15	〃	知識, 技能	〃	〃	〃
16	〃	〃	〃	〃	〃
17	〃	〃	〃	〃	〃
18	〃	技能, 態度	〃	〃	〃
19	〃	態度	〃	〃	〃
20	形成的	技能	指導薬剤師	LS H405 終了時	観察記録, 口頭, シミュレーション, レポート
21	〃	知識, 技能	〃	〃	〃
22	〃	知識, 態度	〃	〃	〃
23	形成的	態度	指導薬剤師	LS H408 中	観察記録, チェックリスト
24	〃	〃	〃	〃	〃

【チェックリスト】

17. 代表的な医薬品の副作用を, 患者との会話や患者の様子から気づくことができる. (知識・技能)
1) 代表的な医薬品の副作用を確認できたか? <input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
2) 患者との会話や患者の様子から副作用の有無について確認できたか? <input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO

第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

各グループ報告書

Eグループ

ユニット名：(4)ベッドサイドで学ぶ

《医療チームへの参加》

SBOs：

4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。
5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。

[議論の経緯]

上記SBOs 4の専門用語については事前実習で基本的な内容をマスターさせ、それが現場で使用できているかを評価する。その際の実習としては、可能な限り内科系と外科系病棟の病棟を実習させ、指導薬剤師が実践で使用する専門用語を習得させる。また、機会があればカンファレンスに参加させる。

評価としては、観察記録の中で使用されているかをチェックし、時折口頭あるいはチェックリストを時折使用して評価することとなった。

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
4.	形成的	技能	指導薬剤師	病棟毎	レポート・観察記録・口頭・チェックリスト
5.	形成的	技能・態度	指導薬剤師	病棟毎	レポート・観察記録・口頭・チェックリスト

《薬剤管理指導業務》

SBOs：

6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を叙集できる。
7. 報告に必要な要素(5WIH)に留意して、収集した情報を正確に記載できる。
8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。
9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。
10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。
11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。
13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。
14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。
15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。
16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。
17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。
18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。
19. 患者に共感的態度で接する。
20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。

21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。
22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。

〔議論の経緯〕

薬剤管理指導業務を実習する場合の基本として、一連の入院患者の流れを把握するためにも少数の患者(1人～2人)の患者について入院から退院までをケアさせ実習方法が望ましいという結論に達した。また、学生が患者記録をみてもよいように、患者からのインフォームドコンセントを得る必要がある。

評価方法は、学生用指導記録(実習レポート)を付けさせるとともに、チェックリストと口頭にて評価する。

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
6.	形成的	技能	指導薬剤師	随時	レポート
7.	形成的	技能	指導薬剤師	随時	レポート
8.	形成的	技能	指導薬剤師	随時	レポート
9.	形成的	技能	指導薬剤師	随時	レポート
10.	形成的	知識	指導薬剤師	随時	レポート・課題レポート
11.	形成的	知識	指導薬剤師	随時	レポート・課題レポート
12.	形成的	技能・態度	指導薬剤師	随時	チェックリスト
13.	形成的	技能・態度	指導薬剤師	随時	チェックリスト
14.	形成的	技能・態度	指導薬剤師	随時	チェックリスト
15.	形成的	知識・技能	指導薬剤師	随時	チェックリスト
16.	形成的	知識・技能	指導薬剤師	随時	チェックリスト・口頭(測定終了後)
17.	形成的	知識・技能	指導薬剤師	随時	チェックリスト・口頭(測定終了後)
18.	形成的	技能・態度	指導薬剤師	随時	チェックリスト
19.	形成的	態度	指導薬剤師	随時	チェックリスト
20.	形成的	技能	指導薬剤師	随時	課題レポート
21.	形成的	知識・技能	指導薬剤師	随時	20のレポートを基に口頭
22.	形成的	知・技・態	指導薬剤師	随時	20のレポートを基に口頭

SBOs15で用いるチェックリスト

1. 自己紹介 (Yes ・ No)
2. 患者氏名の確認 (Yes ・ No)
3. 同じ目線 (Yes ・ No)
4. 患者の訴え
 - ・服用確認 (Yes ・ No)
 - ・総合評価 (Yes ・ No)

《処方支援への関与》

SBOs :

23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。
24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。

[議論の経緯]

SBOs23と24については、薬剤管理指導業務が終了した後に可能な限り医療スタッフを入れて意見を交換し、その際教員も参加してもらって評価することとした。

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
23.	形成的	態度	指導薬剤師・教員	LS終了後	課題レポート・チェックリスト
24.	形成的	態度	指導薬剤師・教員	LS終了後	課題レポート・チェックリスト

社団法人 日本薬学会

第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」

各グループ報告書

Fグループ

【評価計画】

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《医療チームへの参加》					
4	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS(4) ベッドサイドで学ぶ 実習中随時	チェックリスト ※口頭試験で行うが、質問内容 が確認できるようにチェック リストを用いる
5		技能・態度			
《薬剤管理指導業務》					
6	形成的評価	技能	指導薬剤師	LS(4) ベッドサイドで学ぶ 実習中患者毎に	レポート ※薬剤管理指導記録を測定者 が評価する
7		技能			チェックリスト ※チェックリストを用いて、レ ポート（薬剤管理指導記録） を評価する
8		技能			
9		技能			
10	形成的評価	知識	指導薬剤師	LS(4) ベッドサイドで学ぶ 実習中患者毎に	レポート ※具体的な症例に関して
11		知識			
12	形成的評価	技能・態度	指導薬剤師 学生同士	LS(4) ベッドサイドで学ぶ 実習中3回程度 1回目:薬剤管理指導 業務実習初回 2回目:指導薬剤師に ついて行う薬剤 管理指導業務[見 習い]終了時 3回目:薬剤管理指導 業務実習終了後	1回目: 薬剤管理指導業務に 関する口頭指導の結果 を、随時“ 論述 ”し、指 導薬剤師が評価する 2回目: 論述+観察記録 ※1回目同様の論述試験 とチェックリストを用 いた観察記録 3回目: 観察記録 チェックリスト使用
13		技能・態度			
14		技能・態度			
15		知識・技能			
16		知識・技能			
17		知識・技能			
18		技能・態度			
19		態度			
20		技能			
21		知識・技能			
22		知識・態度			
《処方支援への関与》					
23	形成的評価	態度	指導薬剤師	LS(4) ベッドサイドで学ぶ 実習中随時	○口頭指導の結果を、随時“ 論 述 ”し評価 ○LS H408 終了後 レポート
24		態度			

【評価表】 SBOs 13～19

身だしなみを整えることができる。	Yes/No
あいさつができる。	Yes/No
自己紹介ができる。	Yes/No
患者フルネームを確認できる。	Yes/No
患者にとって適切な指導環境を整えることができる。	Yes/No
適度に相手を見て話すことができる。	Yes/No
患者に分かりやすい言葉で話すことができる。	Yes/No
一方的に話をせず、相手の話すことを良く聞くことができる。	Yes/No
言葉使いに注意することができる。	Yes/No
共感的な繰り返しができる。	Yes/No
はっきりした言葉で話ができる。	Yes/No
患者背景を理解した説明、接遇ができる。	4段階評価 (1・2・3・4)
薬剤情報、患者情報を把握できる。	4段階評価 (1・2・3・4)
必要な情報を伝えることができる。	4段階評価 (1・2・3・4)
患者は納得して帰ったか。	4段階評価 (1・2・3・4)
総合的にみて、適切な服薬指導ができたか。	4段階評価 (1・2・3・4)

【実務実習（コミュニケーション）評価方法】

1. 実習生は5名程度、750床規模の施設でグループ病院実習は行なわない2.5ヶ月の実習。
2. 測定者は指導薬剤師。大学教員が測定者に加わることは、非現実的である。
3. 薬剤管理指導は技能・態度教育であるが、現在ある評価方法では適切に評価できない。
 - 実習中随時、学生に口頭試問しフィードバックする。
 - 質問内容は、チェックリスト等を作成し一定になるようにする。
 - 学生が残す実習記録も参考にして評価する。
4. SGDを、病棟カンファレンスを想定し随時行なう。
5. 評価表は作成するにとどまり、評価基準までは議論できなかった。

- ・ SBO 4,5 では、病棟カンファレンス等で討論されている専門用語を学生が理解できているか、その都度確認しながら評価する。新たな専門用語、以前修得した専門用語、質問が統一できるようにするため、チェックリストを用いて口答試験する。筆記試験等という意見も見られたが、技能教育であるため上記のような意見でまとまった。
- ・ SBO 6～9 も技能対象であるが、レポート（という名目？）で評価する。日々の実習日誌を参考に評価していき、実習後半では学生自身が患者毎に薬剤管理指導記録を記載することになると想定し、その記録を評価する。その時、評価者によって評価がばらつかないようにするためチェックリストを用いて行なう、ということで意見がまとまった。
- ・ SBO 10,11 も6～9 同様、患者毎の記録（実習日誌/薬剤管理指導記録）を評価することで意見がまとまった。特に評価のための設問は設けず、常日頃の記録を参考とする。
- ・ SBO 12～22 は、薬剤管理指導業務そのものの実習であるためいろいろな意見が出たが、最終的には段階別に評価することで落ち着いた。薬剤管理指導業務実習を、初めは指導薬剤師と行動し、最終的には学生で患者を指導すると想定し、初回、中頃、終了時の3段階で評価していくことで意見がまとまった。
SBO 毎の評価では薬剤管理指導業務全体は修得することができないので、全体を大きくみた評価方法の提案となった。
- ・ SBO 23,24 でも、段階的に、患者毎に病棟を意識したSGDを開き、討論し、それをレポートという形で評価していくことに意見が集約された。他の医療スタッフとは、できる範囲で参加していただくことを想定している。
- ・ 評価表は、報告された「実務実習事前学習の評価方法の作成」を参考として討議したが、基本的には大学での事前学習でも、病院での実務実習でもチェックすることは変わらないという意見のもと、今回の提案となった。

第三部「服薬指導・顧客対応を中心とした実習の在り方への提言」

各グループ報告書

Aグループ

実務実習モデルコアカリキュラム方略のうち、《服薬指導入門実習》および《服薬指導実践実習》について実際的なスケジュールの作成を行った。

【作成の経緯】

全体の構成として、見学→シミュレーション→実践の流れで、それぞれのステップでの繰り返しの訓練を業務の流れの中で実施することとした。指導薬剤師が学生の到達度を見極めながら、ステップアップしていく方法をとることとし、実施時期および時間はあくまでも目安である。

当初、《服薬指導入門実習》と《服薬指導実践実習》を分けて作成する方針をとったが、《服薬指導入門実習》と《服薬指導実践実習》とは厳密に区別することは難しく、指導薬剤師の評価・判断のもとに適宜ステップアップしていくことが望ましいと判断した。疾患、患者特質、服用薬剤などの面から、指導薬剤師が実践できると判断した症例から順次実践していくこととする。必要に応じて監督する指導薬剤師が介入・補足する。

実習生の見学および実践に関わるインフォームドコンセントは、指導薬剤師が個別に患者さんから取得し、シミュレーションに利用する薬歴などに関わる同意は、薬局内の掲示にて取得する。実習生からは、守秘義務にかかわる同意を書面にて取得することとする。

最終的に次に示すプロダクトを得た。

【服薬指導入門実習】 LS322 【服薬指導実践実習】 LS323

ステップ	時期	時間	学習内容	備考
1	1週目	450	薬歴簿、薬品情報提供書、お薬手帳、健康手帳を活用した服薬指導の見学	初回には事前説明を行う
2	1週目	180	見学内容について、指導薬剤師との意見交換・質疑応答	ステップ1, 2は繰り返す
3	2週目	270	シミュレーション 調剤済みの処方箋と当該患者の薬歴簿を使用して実施する。	レポート作成 (実習日誌)
4	2週目	270	シミュレーション結果を指導薬剤師と討議、反省	ステップ3, 4は繰り返す
5	3週目～	1080	インフォームドコンセント済みの患者さんに対して定型的な（服用指示、患者向け説明文書を活用した、お薬手帳・健康手帳を活用した、等）服薬指導を実施する（LS322） インフォームドコンセント済みの患者さんに対して実践的な（病態・服用状況についての問題点を把握した、患者さんの求める情報の適切な把握と回答、薬効・副作用の情報収集と対応、すべての情報を統合した上での評価・指導・対応、等の）服薬指導を実施する（LS323）	指導薬剤師の監督下で行う。 必要に応じて薬剤師が介入・補足する
6	3週目～	270	服薬指導結果を指導薬剤師と意見交換・質疑応答する	
7	3週目～	2160	服薬指導ケースレポート作成	ステップ5, 6, 7は繰り返す

インフォームドコンセント

- ステップ1, 5 : 指導薬剤師が個別に患者から同意を取得する
- ステップ3 : 薬局内の掲示にて患者から同意を取得する
守秘義務について実習生より書面にて同意を取得する

第三部「服薬指導・顧客対応を中心とした実習の在り方への提言」

各グループ報告書

Bグループ

【議論の経緯】

Bグループでは、薬局実習における服薬指導入門実習および服薬指導実践実習について検討した。方略をもとに実際的なスケジュールを作成する作業を、以下の点を確認しながら行った。

《服薬指導入門実習》

- ・ 見学、模擬、実地という段階を踏んで進める。
- ・ 見学と模擬は連動させるのが望ましい。見学した患者の処方内容でシミュレーションを行えば理解が得やすい。
- ・ 実地では、対象としたい患者（処方内容が簡単であるなど）を事前に選んでおき、薬歴や過去の処方を事前勉強できる時間を取れるとよい。ただし必ずしもそのようなケースが得られるとは限らないため、見学・模擬で経験した内容に近い処方内容の患者で対応する可能性もある。
- ・ 評価は、各段階における総括の中に組み入れることができる。
- ・ 実地では、レポート（日誌）作成も入れる。
- ・ インフォームドコンセント（IC）の取得は、窓口で実施する。

《服薬指導実践実習》

- ・ 学生の経験の積み重ねに伴って、一人の患者の対応に要する時間が短縮すると考えられる。したがって、処方内容の難易度をあげること、および対応患者数を増やすことで、ステップアップを行っていくのがよい。
- ・ 最終的には、受付から薬歴記載までの一連の流れを行えるとよい。

これらの議論をもとに作成された最終プロダクトを次項に示す。

【最終プロダクト】

《服薬指導入門実習》(90分×12)

ステップ	時期	時間	学習内容	備考
1	1週目	90分×5	見学 ・ 心得・総括を含む ・ 指導薬剤師と討論	窓口 IC
		90分×5	模擬(シミュレーション) ・ 見学と連動して行う ・ 指導薬剤師と討論	
2	2週目	90分×2	実地 ・ 心得・総括を含む ・ 見学・模擬を行った再来患者、 または同程度の症例 ・ レポート(日誌)作成	窓口 IC

《服薬指導実践実習》(90分×40)

ステップ	時期	時間	学習内容	備考
1	3~4週目	90分×10	SBOs 45~49 ・ 処方内容: 簡単 ・ 患者1人/日	窓口 IC 再来患者対応 もあり
2	5~6週目	90分×10	SBOs 45~49 ・ 処方内容: 中程度 ・ 患者2人/日	
3	7週目	90分×10	SBOs 45~49 ・ 処方内容: 高度 ・ 患者3人/日	
4	8週目	90分×10	SBOs 45~49 ・ 受付・調剤~服薬指導 ・ 患者1~3人/日	

第三部「服薬指導・顧客対応を中心とした実習の在り方への提言」

各グループ報告書

Cグループ

C班は薬局実習の（3）薬局調剤を实践する 中の《服薬指導入門実習》《服薬指導実践実習》について、実際のスケジュール例につき以下のように考えた。

なお、この実習は《処方せんの受付》の項目を終了した後に行うものとする。また、実際の患者（顧客）に学生が接する項目もあるので、事前に患者（顧客）選定を注意して行う必要がある（指導薬剤師）。

表中のICとはインフォームドコンセント（説明は後述）

1) スケジュール例

Step	時期	時間	内容	備考
1	開始～2週	90分×2	指導薬剤師の服薬指導を見学	指導薬剤師からある程度距離を置いて見学 IC：①
2	3週～4週	90分×4	見学実習に関する反省、考察、指導薬剤師との討議	指導薬剤師の隣で見学、可能な場合は一部学生が行う IC：②
		90分×3	見学（10分）服薬指導の立案（20分）合計30分を9人の患者（顧客）に	
		90分×1	上記の内容に関するレポート	
		90分×1	反省と討議	
3	5週～	90分×1	評価（観察記録など）	指導薬剤師の監督下で学生が主体になって実施 IC：③
		90分×19	窓口業務（SBO45, 49）	
		90分×10	資料調査・討議	
		90分×1	評価（観察記録・自己評価等）	
		90分×9	窓口業務（SBO46～48）	
90分×1	評価（観察記録、自己評価等）			

注：step 1 と 2 が《服薬指導入門実習》，step 3 が《服薬指導実践実習》に対応する。時間数などはLSのp321, 322を参照に決めた。

2) IC（インフォームドコンセント）の説明

- ① Step 1 に関しては実習開始時にポスター掲示と、患者（顧客）別に口頭説明で行う
掲示例「当薬局には実習生がおります。ご理解お願い致します」
- ② Step 2 に関しては、この実習の開始時に口頭説明を行う
 - ・ 個々の患者（顧客）に、実習生の同席の了承を得る（口頭同意）
 - ・ 実習生はきちんと挨拶をすること
- ③ Step 3 に関しては、この実習の開始時に口頭説明を行う
 - ・ 個々の患者（顧客）に、実習生が説明することの了承を得る（口頭同意）

社団法人 日本薬学会

【作業内容】

方略をもとに、以下の点を考慮して実習の実際的なスケジュールを作成した。

- ・段階的な学習スケジュールを作成する。
- ・適切な時期に適切な評価を組み入れる
- ・インフォームドコンセントをどのように得るか

Dグループでは、LS：H403（《薬剤管理指導業務》6,7,8,9：下記参照）に関して作業を行った。

- SBO**
6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。(技能)
 7. 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した情報を正確に記載できる(薬歴、服薬指導歴など)。(技能)
 8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。(技能)
 9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。(技能)

【話し合いの概要】

- 1) 実習の導入にあたって、最初に何をすべきかについて以下の意見が出された。
 - ・薬剤管理指導のフォーマットの書式説明や診療録、看護録の置き場所、内容の詳細な見方などの大まかな説明が必要である。
 - ・各大学の実習生のレベルを標準化するために、講義・評価から入る必要がある。
 - ・最初の一週間は見学にした方がよい。
- 2) 目的意識をはっきりさせるためにも、説明が最初にあって、説明→見学→シミュレーション実習→実地実習の流れが必要である。
- 3) 7に到達していれば(収集した情報を正確に記載できれば)、8, 9は自ずと到達していると判断する。
- 4) モデルコアカリキュラムでは、1病棟を4週間、2病棟の実習となっている。従って、1病棟分を作成し、それを2クール実施する。
- 5) ステップ2, 3, 5~7では、病棟に行ける回数を週3回(時間×3とした)と考える。その場合、情報収集する患者さんは3人となる。
- 6) 1病棟の実習4週間のうち、SBOの6~9(LS：H403)は3週間で終了し、残り1週間は、LS：H404の実習をおこなう。

- 7) インフォームドコンセントについては、以下の意見が出された。
- ・入院時に書面でとり、さらに、実際の実習時に指導薬剤師がとる。
 - ・入院時に書面でとり、さらに、実際の実習時に指導薬剤師が同行し、学生がとる。
 - ・入院時に書面でとり、さらに、実際の実習時に指導薬剤師が同行し、学生が文書でとる。(Dグループではこの案が採用された)

【プロダクト】

ステップ	SBO	時期	時間	学習内容	備考
1	6	1週目	90分	診療録・看護記録等の読み方・見方を説明する	
2	6,7,8	1週目	60分×3	指導薬剤師が情報収集し、情報を報告している様子を見学させる	
3	6,7,8,9	2週目	60分×3	収集した情報を記載させる	シミュレーション
4		2週目	60分×3	評価(口頭・観察記録)を学生1人1人にフィードバックする	
5		3週目	5分×3	インフォームドコンセントの取り方を指導した後、薬剤師が同行し文書で学生がとる	実地
6	6,7,8,9	3週目	55分×3	収集した情報を記載させる	実地
7		3週目	30分×3	評価(口頭・観察記録)を学生1人1人にフィードバックする	

《1病棟あたりのスケジュール》8週間で2病棟おこなう。

	1週目	2週目	3週目	4週目
	□ □ □	□ □ □ ■	□ □ ■ □ □ ■ □ □ ■	
	↑	↑	↑ ↑ ↑	
ステップ1	ステップ2(3回)	ステップ3(3回)	ステップ4	ステップ5～7(3回繰り返す)
(説明)	(見学)	(シミュレーション実習)	(評価)	(ICをとる)(実地実習)(評価)

- ・ステップ5～7はまとめる。(評価は毎回おこなう)
- ・2病棟目ではステップ1は省略する。

第三部「服薬指導・顧客対応を中心とした実習の在り方への提言」

各グループ報告書

Eグループ

ユニット名：(4)ベッドサイドで学ぶ

第三部のプロダクト作成に関し、基本的考え方は、第二部「実務実習（コミュニケーション）の評価方法の作成」で得られたプロダクトに従った。すなわち、SB04～22に示された個々の知識・技能・態度をスポット的に修得するより、個々の患者をライン（症例）として、方略をベースに、知識・技能・態度の修得に取り組むスケジュール作成を心がけた。なお、タイムスケジュールに示す一連の実習ユニットを病棟単位で繰り返すものとする。

《医療チームへの参加》

H402：◎医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。（技能）◎病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。（技能・態度）

議論のポイント：上記SB0については、病棟（理想的には内科系と外科系病棟）での実習を経験し、病棟になじむことで自ずと身に付くものであり、病棟実習全期間中に、指導薬剤師が経日的な評価（第二部でのプロダクト）とフィードバックを行うことで可能である。病棟になじむということでは、1週間程度の課題フリーの自由な病棟散策的時間を設けることも提案されたが、実施は困難であろうという結論に至った。

《薬剤管理指導業務》

H403：◎診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を叙集できる。（技能）◎報告に必要な要素(5WIH)に留意して、収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴）。（技能）◎収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。（技能）◎患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。（技能）

H404：◎使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。（知識）◎臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。（知識）

H405：◎医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。（技能・態度）◎患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。（技能・態度）◎薬に関する患者の質問に分かり易く答える。（技能・態度）◎患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。（知識・技能）◎代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。（知識・技能）◎代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。（知識・技能）◎患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。（技能・態度）◎患者に共感的態度で接する。（態度）

議論のポイント：まず、イントロダクションとして、病棟のシステム、スタッフ紹介、自己紹介、引き続き病棟の巡回。この時点で、診療録、看護記録、カルテなどの情報源を把握させ、その閲覧の許可を患者とスタッフ両者から得る必要性を指示。薬剤管理指導業務実習の基本として、一連の入院患者の流れを把握するためにも少数の患者(1人～2人)について入院から退院までを観察させる実習方法が望ましいという結論に従い、学生の担当する患者を決定し、学生自らがインフォームドコンセントを取得し、H403～H405のSB0を病棟での実習の間に到達することを基本とした。この間、学生には実習記録をレポートさせるが、薬剤管理指導録を学生用にアレンジした物を使うことも提案された。H404は知識を問うものであるため、所定の期間の実習を終えた後、課題レポートを課すこととした。

H406：◎患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。(技能)

H407：◎期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。(知識・技能) ◎副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。(知識・技能)

議論のポイント：H406については、学生が担当した患者(症例)について、SOAPを課題レポートとして作成させ(薬剤管理指導録の利用も可)、それを題材に、指導薬剤師との討議と口頭による諮問によりH407を行うが、随時、医療スタッフとの討議も含める。

《処方支援への関与》

H408：◎治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度) ◎適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)

議論のポイント：タイムスケジュールに示す一連の実習ユニットが終了した後に、医療スタッフを加えたSGDの場を持ち、原則として薬学部の教員も参加することとした。

ステップ		1週目							2週目							
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
H402	専門用語の使用															
H404	コミュニケーション															
H403	イントロダクション 病棟薬剤業務見学	①	病棟案内、スタッフの紹介・配置・スケジュール													
	担当患者の決定 学生によるIC取得	②	<ul style="list-style-type: none"> ・指導薬剤師のIC取得に立ち会う ・IC取得シミュレーションにて確認 ・指導薬剤師が、事前にスタッフへの了解をとる 													
	情報収集 治療方針の把握	③														
H405	指導薬剤師との討議	④														
	情報を基に調査 指導内容を考察	⑤														
	指導薬剤師と再討議 治療方針決定のシミュレーション	⑥														
	服薬指導を実施 指導薬剤師と討議	⑦														
H406 H407	問題点リストアップ⇒ SOAP作成 医療スタッフとの討議	⑧														
H408	医療スタッフとの連携 観察	⑨														SGD

第三部「服薬指導・顧客対応を中心とした実習の在り方への提言」

各グループ報告書

Fグループ

実務実習モデル・コアカリキュラム「病院実習方略」薬剤管理指導業務の方略をもとに実際的なスケジュールの作成を行った。学習のステップを示し、患者のインフォームド・コンセントをいつ得るかについて検討し、下記のスケジュールの作成を行った。インフォームド・コンセントは学生が見学する前に1度取っておいて、指導薬剤師が選択した特定の患者に対して学生が見習いとして薬剤管理指導業務を行う際にも、直前にその特定患者のインフォームド・コンセントをとる。尚、インフォームド・コンセントは、指導薬剤師がとるべきかあるいは学生自身がとるべきか議論になった。インフォームド・コンセントをとる際には、いづれにしても指導薬剤師の同行が必要である。

<薬剤管理指導業務>

ステップ	時期	時間	学習内容	備考
0	前		見学のインフォームド・コンセント	
1	1週目	60分 x 3	見学（薬剤管理指導業務）	見学
2	2週目初め	60分	インフォームド・コンセント	
3	2週目	30分 x 3	特定患者（指導薬剤師が選択）	見習い
4	3週目	60分 x 3	カルテ、看護記録、検査記録等から情報収集 薬剤管理指導業務	実習
5	4週目	60分 x 3	カルテ、看護記録、検査記録等から情報収集 薬剤管理指導業務	実習（ステップ4の繰り返し）

また、LSのH406では、2週間（見学、見習い期間）はSOAPの練習を行い、3週目（実習期間）と4週目（実習期間）でSOAPの実践を行う。SOAPの練習では指導薬剤師がコピー（例題）をわたす。SOAPの実践では実際の患者さんの問題点を抽出する。

2週間（見学、見習い期間）

ステップ

- (0) 指導薬剤師がコピー（例題）を学生にわたす
- (1) 問題の可能性を見つける
- (2) 問題点を抽出する
- (3) 資料で調べる
- (4) まとめる
- (5) 指導者に報告する。

3 週目、4 週目（実習期間）

ステップ

- （1）問題の可能性を見つける
- （2）問題点を抽出する
- （3）資料で調べる
- （4）まとめる
- （5）指導者に報告する。

社団法人 日本薬学会